

# OPEN CAMPUS

ニュージーランドにある国際大学IPCにきてみませんか?

高校生の休み期間を利用  
7月・8月・3月に開催

IPCオープンキャンパスは、留学体験や英語教育が受けられるなど盛り沢山の内容です。

- ◎ 大学授業体験
- ◎ ホームステイ体験
- ◎ 地元小学校／高校訪問
- ◎ TOEIC対策
- ◎ 多国籍学生との交流会
- ◎ 羊の毛刈りなど

ご相談・お問合せは

TEL. 03-6202-0606



# IPC

TERTIARY  
INSTITUTE  
NEW ZEALAND



募集定員 **25** 名  
\*定員数は毎年変わります。  
\*定員になり次第受付終了。

インターナショナル・パシフィック大学日本事務局

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 ダイア八重洲口ビルB1F  
電話 03-6202-0606 Eメール infoj@ipc.ac.nz  
<http://www.ipc-nz.ac.jp>

IPC TERTIARY INSTITUTE, NEW ZEALAND

# DREAM BIG

GET A HEAD START ON YOUR FUTURE

# IPC NEW ZEALAND

インターナショナル・パシフィック大学  
UNDERGRADUATE AND POSTGRADUATE PROSPECTUS

Established in 1990 in Palmerston North, widely known as the 'Knowledge City', IPC Tertiary Institute received an evaluation of 'Highly Confident in educational performance' from New Zealand Qualifications Authority in 2011. The quality of IPC's educational programmes, as well as its academic, pastoral and guidance support for students was highly regarded.

IPC Tertiary Institute focuses upon international education at undergraduate and postgraduate levels. Students from more than twenty different countries are living and learning together. As English is used as the common language and medium of teaching/learning, IPC provides excellent English-learning programmes and support for those who are non-native speakers of English.



## CONTENTS

3	Foreword
4	About IPC
6	VI reasons to study at IPC
8	NZQA

### The Programmes

10	Academic Programmes
12	Foundation Programme
16	International Business
18	International Relations
19	Environmental Studies
20	Language Studies / TESOL
22	Business Communication
23	Tourism
24	Environmental Studies
26	Dedicated Educators
28	Postgraduate Studies
30	Internship Programme
32	Career Services

### About New Zealand

34	New Zealand
36	Palmerston North

### The Campus Life

40	IPC Campus
42	Campus Life
44	Halls of Residence
46	Dining Hall
48	Student Support
49	Support Services
50	Homestay

52	Graduates at Work
53	Students' Voice

### Support for Parents

54	Support for Parents
----	---------------------

### IPU

56	About IPU
----	-----------

# IPC TERTIARY INSTITUTE NEW ZEALAND



1987年、「環太平洋大学構想」が誕生。  
環太平洋圏を代表する教育者と識者がホノルルに集まり、国際教育会議で「ニュージーランド初の私立全寮制国際大学」を設立する案が発表され、ニュージーランド政府・国会での議論の末、教育改革の一環として、ニュージーランド初の私立大学の設立が承認されました。  
そして、1990年には「知識の街」と知られるパーマストンノース市に、日本人が開学した大学としては初となる国際大学「IPC」が誕生。  
現在は、英語圏の学生、そして、英語を母語としない留学生を「成功に導く大学」へと成長し、世界20か国以上の学生たちがキャンパスに集結。ビジネスの専門知識や語学・教養を学んでいます。

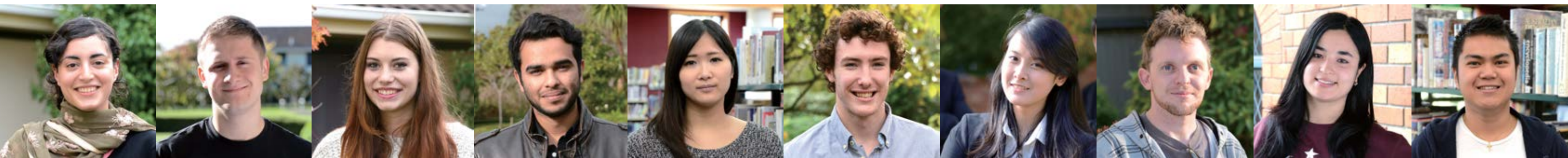


## 学長挨拶

世界の片隅で起こる「誰かの問題」を「我々の問題」として捉えることが求められているグローバル社会において、IPCの学生は、政治、経済、ビジネスなどの多様な分野を統合的に学び、卒業後には、一流企業や政府関連団体、NGO（非政府組織）をはじめ、観光、国際関係、文化、教育等、さまざまな分野で活躍しています。NZQA（ニュージーランド政府教育資格審査局）の監督のもと、高い教育水準を誇り、国策としては、環境保護を強く推し進めるニュージーランド。紛争地域から遠く離れた安全な国として、ニュージーランドの国際大学IPCには、世界各国から大勢の学生が集います。

ニュージーランドについての知識を深め、この国に集まる人々の多様な文化を知り、英語力と国際的な教養を高めれば、グローバル人材として活躍するための大きな自信となることでしょう。あなた自身の将来において、どのように社会に関わり合えるかをIPCでは是非見つけてください。世界で活躍するというあなたの目標をIPCは全力でサポートし、しっかりと皆さんを導いていきます。

*Wayne Edwards* 学長 ウェイン・エドワーズ



# LEARNING & LIVING

with students from over 20 countries

IPCで学ぶ留学生と教職員を含む出身国の地図



## 国際大学IPCで世界を学ぶ

### 「知」と「教養」を世界水準に

大学全入時代となった日本で「国際」を売りとする大学が増えている今だからこそ、真の国際教育とは一体何なのか問われるべきではないでしょうか。そもそも、日本国内で行う国際教育だけで十分なのでしょうか。英語環境に身を置き、世界各国から集まる留学生と机を並べ学ぶからこそ、異なる文化背景や価値観から国際感覚が研ぎ澄まされ、それをベースに現代社会に必要とされる「知」や「教養」を学び得ることができます。IPCでは、英語教育で世界から遅れをとっている日本の現状を踏まえ、初年度の基礎英語教育（入学時英語力問わず）での1年間で生きた英語力を養い、続く2年次からの現代国際学部では、国際社会で必要とされる「知」と「教養」そして「経験」を得て、世界を舞台に活躍できる人材を育成する計4年間のプログラムが用意されています。この留学は人生を大きく変える4年間です。

**基礎英語教育** + **現代国際学部**  
 \*入学時英語力問わず      \*世界で通用する学士号取得

留学初年度は、基礎英語力の向上を目指し、20カ国以上の学生が集う国際大学で共に学ぶための力を養います。IPCの教育プログラムのユニークな点は、専門課程で学ぶ3年間にも実践的な英語力や専門的な英語力を伸ばす機会が得られること。多国籍学生同様、卒業後に国際人として活躍できるよう国際大学IPC独自のカリキュラムが組み込まれています。



# VI

## REASONS TO STUDY AT IPC

Highly effective English skill development programmes  
 Cross-cultural communication skills developed in a multi-cultural environment  
 Small student-to-teacher ratios enhance intensive and effective learning  
 Internship opportunities for real, hands-on business experience  
 Career support programmes available both in NZ and Japan  
 Career pathways to promising industries



## IPCが選ばれる6つの理由



### 高度な英語力

4年間の一貫教育がユニークなIPCの英語教育。1年次の基礎英語教育と2年次以降の実践英語教育(専門課程と並行して履修)を行っているため、確実に高度なレベルの英語力をつけることが可能です。「聴く」「話す」力だけでなく、「書く」「議論する」等、実践に応用できるスキルとして、英語を身につけていきます。

### 異文化コミュニケーション力

語学力は重要ですが、それ以上に多文化環境の中でもスムーズにコミュニケーションを行うことができる人材が現在のグローバル社会では求められています。IPCではクラスだけでなく、キャンパスライフを通じてさまざまな国からの留学生と交流し、切磋琢磨しながら、国際センスを磨いていきます。

### 実践力を養う少人数クラス

IPCの卒業生が口を揃えて語るのが「IPCで何度も行ったプレゼンテーションやディスカッションが、役に立っています」。教授が学生一人ひとりと対話をしながら進める少人数クラスで、プレゼンテーションやディスカッションを繰り返し行うことにより、苦手意識を克服し、社会人としてすぐに使えるスキルへと変えていきます。



### インターンシップで実地体験

授業で学んだ知識やスキルは、実際に社会と関わり合いを持つことで初めて発揮されるもの。IPCでは在学するすべての学生にインターンシップを推奨しています。厳選された30社以上の提携先から、自分の興味や専攻に合った研修先を見つけ、英語を駆使しながら、グローバル人材になるための経験を積んでいきます。

### 安心の「就職活動」

就職活動には、しっかりとした事前準備が必要。業界・企業研究、自己分析、エントリーを済ませて、日本での就職活動が始まります。IPCに在学する日本人学生にはニュージーランド現地と日本の2か国でのキャリア支援を実施。留学生に日本の大学生と同じ条件で就職活動ができるよう、最大限の支援をしています。

### 「これからの企業」に強いIPC

伝統的な大企業が伸び悩んでいる中、成長を続けている企業もたくさんあり、優良なグローバル人材には活躍のチャンスが多くあるというのが現状です。英語、異文化コミュニケーション力、プレゼンテーション力、そして望めば他諸国の言語も学べるIPCの環境。IPCの卒業生の多くが、成長が著しい国際的な企業で活躍しています。



# NZQA

NEW ZEALAND QUALIFICATIONS AUTHORITY  
RECOGNISED IPC AS "HIGHLY CONFIDENT"

**From left to right**

Mr Hiroshi Ohashi, MNZM  
CEO/Chairman of the Board

Mr Jacob Morton  
Bachelor of Contemporary  
International Studies  
New Zealand

Professor Wayne L. Edwards, OBE  
President

## 政府教育審査機関が最高評価

2011年度、IPCは「ニュージーランド政府教育資格審査局 (NZQA)」から「Highly Confident (自信を持って高く評価する)」の最高評価を受けました (4段階評価)。NZQAは、ニュージーランド国内のすべての教育機関が一定レベルの教育活動を行っているかを監査し、各機関の教育内容を評価するとともに、改善のための提言を行う政府機関です。

### 実績

#### 英語力の向上に高い評価

在学生、および過去の在学生が、学習において一貫して高いレベルの成功を修めていること、学生自身が学習成果に満足していること、そして初年度の基礎英語教育で英語力を向上させていることを高く評価する。

### 卒業

#### 高水準の卒業率

卒業率90%がニュージーランド国内の平均となる71%を高く上回っていること、次年度の履修率も83%と高水準であり、これも国内平均の66%を大幅に上回っていること。14%の卒業生が大学院等、次のレベルへの進学を実現している。

### 教育

#### 学生のための教育環境が最適

IPCの教授陣は在学生を効果的に指導し、レベルに応じた適切なアカデミック上の課題を与えている。そして、学生がよく学び業を達成するように意識づけている。また、学生と教職員の比率が最適である。

### 支援

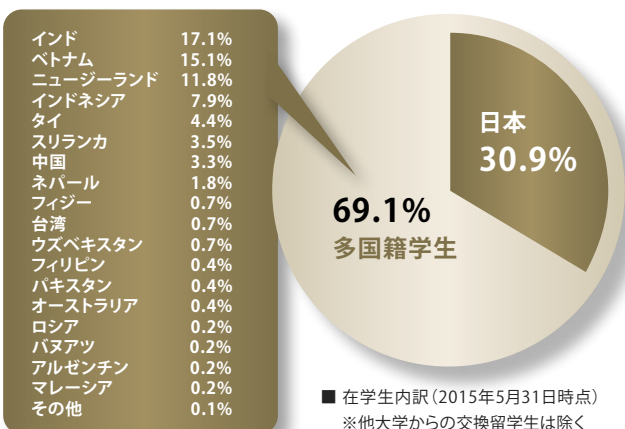
#### 学生への支援やアドバイスが適切

学習資料や研究資料が充実しており、学業面や生活面でもスタッフからのサポートが容易に得られることに学生が満足している。個人の出席状況や成績をよく管理しており、学生が健康によく学ぶことができるように丁寧に指導している。

## IPCの教育プログラム

### 国際人を目指す学生のための学習環境

今、さまざまな視点で物事を捉え、クリエイティブに問題を解決できる人材が求められています。国際大学IPCで取得できる資格は、修士号から学士号、そして専門ディプロマまでさまざま。英語力にとどまらない国際人としてのコミュニケーション力、知識だけでなく実践力を、ビジネス、国際関係学、環境学、言語学、観光学等の分野で身に付け、社会人になるときに発揮して下さい。また、IPCは中国、ロシア、ブラジル、インドネシア、台湾、日本、ベトナム、タイ、ウズベキスタン、タジキスタンの計10か国の高等教育機関と提携関係にあり、各教育機関との連携を進め、グローバル時代に輝ける人材の育成と高い教育成果を使命とし、歩み続けています。



## 英語を母語としない学生へ

### 『基礎英語教育』から『実践英語教育』まで

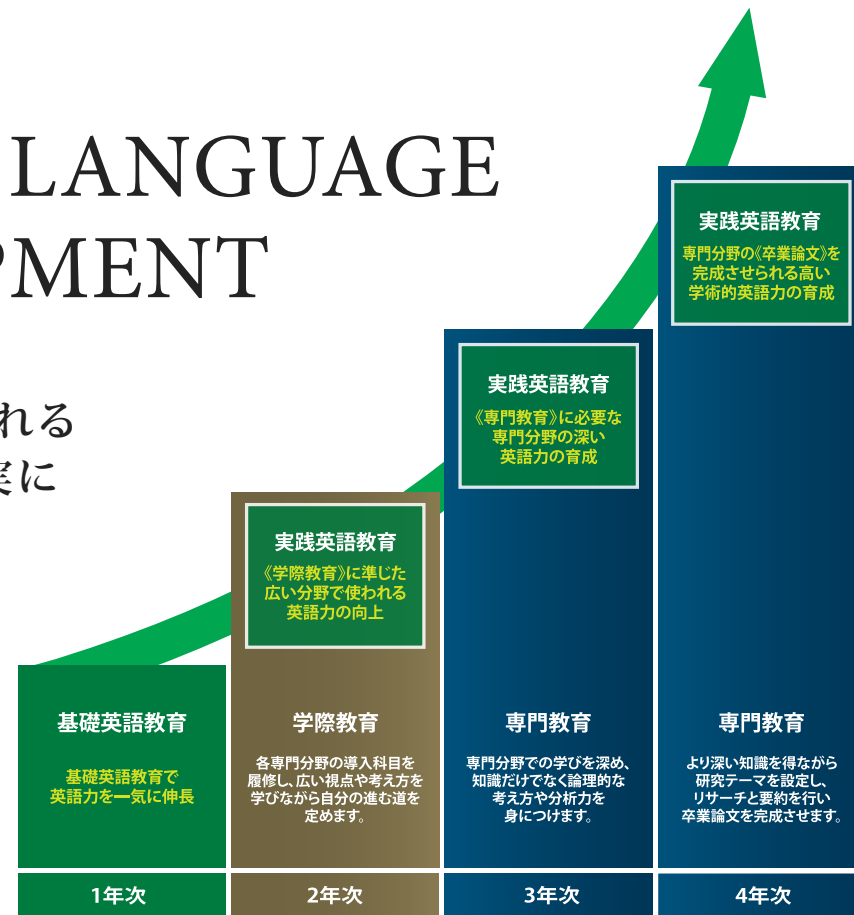
IPCはニュージーランドの大学であるとともに、環太平洋圏をはじめとする世界各国からの留学生のために設立された国際大学です。世界20か国以上から集まる学生にとって、「異文化コミュニケーション力」の習得がとくに重要となります。実践力を養う少人数クラス制 (最大20~25名程度) で高度な英語力を身につけられる環境は国際大学であるIPCならではの。初年度の基礎英語教育ではしっかりとした英語力を磨くとともに、4年次まで専門課程と並行して行われる実践英語教育 (イングリッシュスキルズ学習) で、他の大学では例を見ない、著しい英語力の向上が見込めます。



# ENGLISH LANGUAGE DEVELOPMENT

## 4年間を通じて行われる英語教育で毎年着実にステップアップ!

初年度の基礎英語教育だけが、IPCの英語教育ではありません。留学生のための国際大学として、卒業までの4年間を通じた英語教育で、ビジネスの世界で、または各分野の専門家として活躍できる英語力を養います。専攻する科目のレベルや個々の能力に合わせて段階的に行われる指導によって、卒業までに国際舞台で通用する高度な英語力を身につけます。



## 複数の専門分野から学ぶ「学際教育」で広い視点からベストな成果を導きだす。

国際化の進展に伴い、1つの分野のみに集中して研究すればよいという時代でなくなってきた現在、物事を多角的に理解し、総合的な観点から問題解決のできる人材が求められています。少数制の中で育まれる「コミュニケーション力」「実践英語力」「発言力」「プレゼンテーション力」「交渉力」「問題解決力」「リーダーシップ」などのスキルは、専門課程の履修と合わせて卒業時に大きな力となります。2年次以降の専門課程の履修においては、従来の学問における専門分野に縛られず、複数の分野をまたがって研究することが求められます。世界経済は政治とビジネスを軸に変動しており、IPCでは、諸問題を国際ビジネス、国際関係、環境問題の観点から検討します。さらに、グローバル世界の共通語としての英語も必須となります。次世代のリーダーを育成するため、以上の分野を総合的、そして実践的に学び、「狭い範囲のスペシャリスト」ではなく、「幅広い基盤と対応力を持つ人材」を育てます。大学に在籍しながら、企業で実務研修を行うインターンシップを通じ、在学生は大きな自信を身につけることもできます。語学力を磨くだけでなく、専門知識をさらに深め、社会人への一歩を踏み出します。



## Interdisciplinary Approach



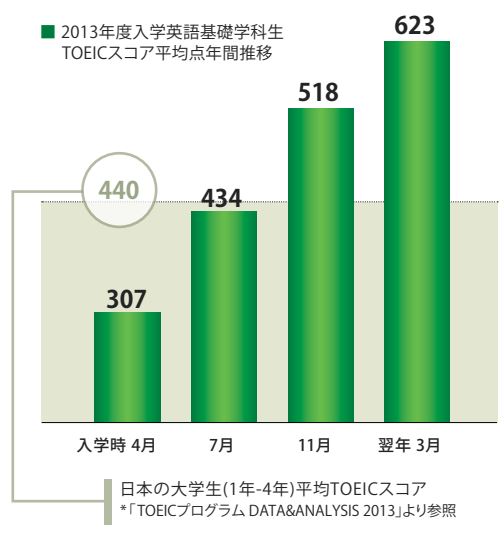


# FOUNDATION PROGRAMME

## 基礎英語教育 ファウンデーション・プログラム

### 語学を学び、まずは海外圏で生きる力を養う

日本人が中高6年間で英語に触れるのは約1000時間。IPCでは初年度だけで1200時間の英語学習を行うだけでなく、日常生活においても毎日英語に触れ、英語を苦手と感じていた学生のコミュニケーション力を一気に育成します。また、英語力を定期的に確認するためにTOEICテストで学期ごとに英語力の伸びを知ることができます。英語を母語としない者として十分なコミュニケーションができると評価される860点以上、さらには900点以上を卒業までに達成することを目標に、英語力を伸ばしていきます。



### 講師との距離が近い『少人数制クラス』

基礎英語教育の講師陣の役割は、英語を「教える」だけではありません。英語を「好きになってもらう」「楽しんでもらう」ことによって、必然的に英語力が身に付くようなクラス環境をつくっています。「TOEICスコアを伸ばしたい」「スピーキング力をつけたい」「語彙を増やしたい」等、学生の目標を把握し、その達成のためのサポートと指導を行います。



### 『出席率』の徹底管理

留学の基本はクラスに出席すること。人前で英語を話すのは日常茶飯事。ほとんどの学生が最初は人前で話すことのミスを恐れますが、クラスでは、「話さなければならない」状況が多くあります。徹底した出席管理で、確実に英語の実力をつけられるよう、学生サポート課と連携した学生指導も行われています。



### 教室の場にとどまらない英語教育

ニュージーランド人学生や、多国籍学生との交流、地元コミュニティでのクラブやボランティア活動、アルバイト、ホームステイなど、学生を取り巻くすべての環境が英語学習に役立ちます。課外授業では地元小学校への訪問やニュージーランド文化を学ぶことができ、満天の星空の下で行うキャンプは、留学生同士の親睦を深める最高の機会となります。

## 4技能の徹底

### SPEAKING SKILL ◎スピーキング力

#### 英語で意思を伝える力を鍛える

効果的なアウトプットを行うには、インプットの質と量が大切です。日本語から英語へ置き換えて理解していくよりも、英語を英語で理解することで、まずは基礎となる語彙力と文法力を徹底的に身につけます。日々の対話形式の授業を通じて教員から指導を受けながら、英語での表現力を少しずつ習得していきます。

### LISTENING SKILL ◎リスニング力

#### ビジネスに耐えうるリスニング力を自然に習得

他人の考えや意見を正確に聞き取ることは、大切なプロセスです。ネイティブスピーカーの英語はもちろん、アジア圏を中心とする非英語圏出身者の英語にも同級生たちを通じて日常的に接することで、ビジネスシーンに耐えうる極めて実践的なリスニング力が身につきます。国際人としての基礎的な聞き取り力が、キャンパスでの生活を通じて自然に身につくでしょう。

### WRITING SKILL ◎ライティング力

#### 建設的に文章で伝える力を養う

「話し言葉」と「書き言葉」は似て非なるものです。入学当初は担当講師との英文日記から少しずつ始めて、英文作成力を身につけていきます。作文、ビジネス文書、英文メールの書き方など、語彙と文法力を強化しながら、何をどう書けば建設的に伝えられるかを、じっくりと時間をかけながら学んでいきます。

### READING SKILL ◎リーディング力

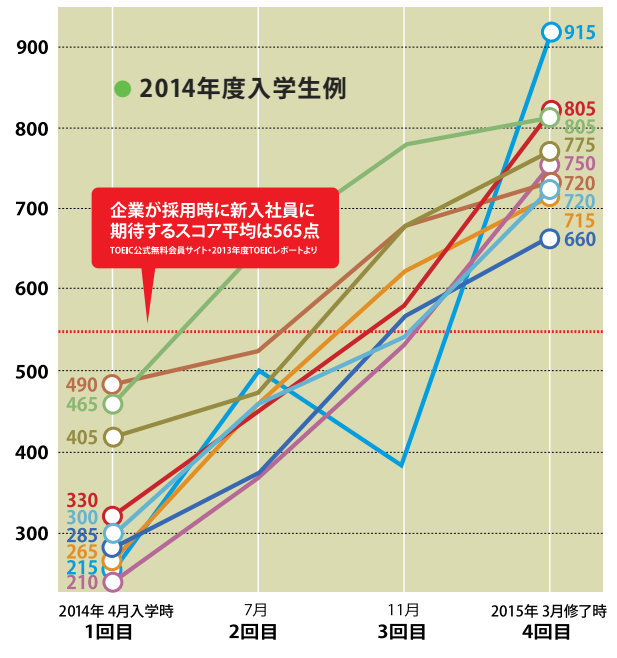
#### 文章理解で論理的な力を身につける

図書館にある3万冊の蔵書は、各専攻に必要な必須書籍を中心に揃えられており、図書館情報学修士号を持つ図書館長を中心としたチームが管理にあたるとともに、定期的な見直しを行っています。また、基礎英語教育の在学生には、それぞれの英語力に応じた語彙のみを用いた書籍を用意しており、無理のない読解力の向上が期待されます。

## TOEICで英語力の伸びを見る

IPCでは、英語テスト「TOEIC(トイーック)」を学内で実施し、英語力の伸びを測るため、その受験を義務付けています(基礎英語教育では入学直後と各学期末の年間計4回。専門課程は年1回)。テストは聴き取り力(リスニング)と読解力(リーディング)の2部門からなり、その結果は、基礎的な英語力を測る上での目安となるほか、専門課程へ進むための英語力があるかどうかを見るためにも使われます。

在學生は皆、テスト結果からそれぞれの課題を見つけ、同級生に負けないように日々、努力を積み重ねています。2013年度入学の学生の記録を分析したところ、入学1年後のスコアアップは平均316点にも上りました。習熟度別の少人数制クラスでの授業と学生たち自身の努力が実を結んだ結果と言えます。さらに、TOEICでは測ることのできない会話力(スピーキング)と作文力(ライティング)は、独自の学内テストでその伸びを見ます。





## 論理的思考を強化する 『IPC独自の英語プログラム』

基礎英語教育(ファウンデーション・プログラム)では、入学時の英語力は問いません。初回の英語学内テストの結果に応じ、それぞれの英語力に合わせたクラスに振り分けられます。日本での教授経験を持ち、日本の教育事情に通じた教員も多いため、日本人留学生に対しては特に、日本の中学と高校で学んだ基礎知識を上手に引き出す指導が可能です。次年度の専門課程に進むための準備期間として基礎英語教育で学び、学術的に論理的思考を系統立てながら育成します。

### 1 学期 4~7月

#### アクティビティなどで伸ばす実践英語

基礎的な語彙を増やしたり、英語の聴き取りに集中します。街に出たり、アクティビティの中で積極的な会話を心掛けたりと、実践的に使う語彙力を特に伸ばします。同時に、自律学習のためのさまざまな方法を学ぶ期間でもあります。

### 2 学期 8~11月

#### 国際キャンパスで『聞く力』が自信に

2年次の専門課程を見据えた英語力の向上に重きが置かれます。エッセイの書き方に慣れ、図書館の利用も多くなるでしょう。聴き取り力が特に上がるのもこの頃で、他国の学生たちとのコミュニケーションも円滑になるはずです。

### 3 学期 1~3月

#### 論理的に英語で伝える技術を学ぶ

論文の作成方法、ノートの取り方など、専門課程に入るための具体的な準備を行います。効果的なプレゼンテーション(口頭発表)の方法、論文の書き方などを習得します。希望の専門課程に入れるよう、1年の締めくくりとして、英語試験「TOEIC」での高得点を目指します。

## EXTRA NIGHT CLASSES

### 英語力を底上げする『夜間特設クラス』

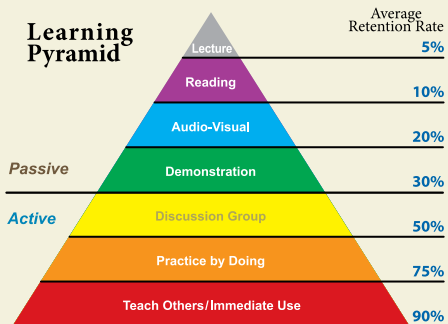
#### 夜間特設クラスで『英語漬け』

IPCでは、留学初年度の日本人学生(基礎英語教育)を主な対象とした夜間特別講習を開講しています。中でも特にユニークなのが、日本人教職員のみならず、先輩の日本人学生も先生役となって後輩を指導する学生同士のチューターリングシステムです。

#### 先輩が後輩を 英語指導するのはなぜ?

「教える側」には、将来にグローバルリーダーや英語教員を目指す学生など、積極性の高い模範生が名乗りを上げています。こうした学生は後輩への指導を通じ、教えることの難しさを理解していくと同時に、日中は学生として出席する通常授業への参加姿勢がさらに能動的となっていきます。逆に「教えられる側」は、英語力向上の面で同じ道をたどったであろう上級生から勉強面で学ぶだけでなく、留学生生活を有意義に過ごすノウハウも学び取っています。

「教える側」と「教えられる側」が互いに刺激を受け合うチューターリングシステム。これにより、IPCでの留学生活で主役となる学生同士がともに成長していく上での相乗効果が期待されます。



学習定着率を示す図表(Learning Pyramid)  
学習定着率は最下部である「Teach Others/Immediate Use」が最も効果的。チューターリングシステムは、学生同士が教え合うことで英語力が向上する理想的なシステムといえる。



# ACADEMIC PROGRAMMES

The qualifications students can receive from IPC include degrees and diplomas at either undergraduate or postgraduate level. Any of the qualifications will be your passport to your future career. Communication skills with high English fluency and practical skills as well as academic knowledge will be gained through IPC's quality programmes.



# Bachelor of Contemporary International Studies INTERNATIONAL BUSINESS

現代国際学部 国際ビジネス学科

進路	CAREER OPPORTUNITIES
会計	Accounting
ファイナンス	Finance
国際ビジネス	International Business
マネジメント	Management
マーケティング	Marketing

TOEIC 730 / IELTS (Academic) 6.0 with no band score lower than 5.5



小田 正規講師

慶応義塾大学経済学修士号、UJF総合研究所を経て、青山学院大学WTO研究センターの客員研究員。また国家戦略室企画調整官として内閣官房に勤務。IPU・環太平洋大学准教授。IPCでは、ミクロ経済学、国際経済学、経済史、日本経済論、貿易論、日本経済史について教鞭を執る。

## 『国際ビジネスで成功する』ための専門学科

国際ビジネスは単に財政学や会計学の観点だけでは成功することはできません。ビジネスの全体像をよく把握できるのがIPCの国際ビジネス学科。学生は狭い範囲でなく幅広い多彩なスキルを身につけ、母国でのビジネスの諸問題についてどう対処できるかを考えられるようになります。国際ビジネスに大きく影響する政治、国際法、環境問題、言語、文化の分野から学び、プレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、「決断力」と「分析的思考力」を養います。



### 様々な文化背景から学ぶビジネス

担当教員との距離が近い少人数制クラスは、どんな質問も気軽にでき、学生が学びやすい環境であるとともに、異なる文化背景を持つ学生が集まっています。これらは、多文化を深く理解しやすくとともに、日々の授業の中で高いコミュニケーションを身につけることができます。国際ビジネスに関心のある学生同士のディベートやディスカッションの中から、新しいビジネスモデルへの発想や閃きが多く生まれることでしょう。

### ■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程(最長1年間) ※国際ビジネス学科の卒業単位には含まれません。
2 年次	BCIS	◎ 経済学原論 ◎ 財務・管理会計 ◎ マーケティングと社会 ◎ 国際商事法
3 年次	BCIS	◎ アジア太平洋地域のビジネス環境 ◎ 国際マーケティング論 ◎ 企業経営論 ◎ 組織行動論
4 年次	BCIS	◎ 企業・国際金融論 ◎ 多国籍企業経営論 ◎ 国際ビジネス論 ◎ 学際研究プロジェクト(卒業論文)

\*開講科目は年度や学期毎に変更されます



**T**HINK Globally

Business is not always about moneymaking only. In IPC's Business programme, students learn business, marketing and finance from practical and theoretical aspects. Personal satisfaction or contribution to society in relation to business will be also talked about. Politics, law, environmental issues, language and culture will be inevitably discussed. Through their classes students experience presentations, discussions and internships, gaining skills and knowledge that can be applied to the real world.

# Bachelor of Contemporary International Studies INTERNATIONAL RELATIONS

## 現代国際学部 国際関係学科

進路	CAREER OPPORTUNITIES
政府機関	Government Departments
在外公館	Embassies
政治分析	Political Analysis
軍事	Military
非政府組織	NGOs

TOEIC 730 / IELTS (Academic) 6.0 with no band score lower than 5.5



ネイサン・イハンバラナサン博士

ロイヤル・メルボルン国際大学 (RMIT)、ビジネススクール (マレーシア) での教職経験があり、東南アジア政治経済の専門家。その後、ロイヤルビジネスカレッジのアカデミックディレクターを経て、IPCで国際関係学を指導。NZIIA (ニュージーランド国際問題研究所) パーマストンノース支部代表。

### グローバルな市民社会が機能する仕組みを理解

グローバル化が急速に進む現在、国際関係学は国際社会で生起する事象の原因と問題点をより正確に理解し、複雑に絡み合う事象を地域的・国家的・国際的な側面からそれぞれ考察することで、グローバルな市民社会が機能する仕組みを理解します。授業では、タイ、インドネシア、ベトナムなど、アジア太平洋地域で存在感を増す東南アジア諸国連合 (ASEAN) 加盟国の学生も多数在学しており、授業で議論をたかかわせる機会も多くあるでしょう。



### ニュージーランド国際問題研究所 (NZIIA)

ニュージーランドがかかわる国際問題について議論し、理解を深めることを目指した非営利団体 (1934年発足)。全国に9支部あり、主に大使・大臣経験者など、外交分野の関係者を招いて講演会を開いています。隔月で発行する機関誌は、国際情勢に的を絞った出版物としてはニュージーランド唯一のものです。パーマストンノース支部は例年、本学がマッセイ大学とともに共同運営し、講演会では教職員と在学生が多数出席しています (本学に近年招いた講演者を27ページで紹介)。

### ■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程 (最長1年間) ※国際関係学科の卒業単位には含まれません。
2 年次	BCIS	◎ 国際関係学入門 ◎ ニュージーランド・東アジア関係論 ◎ 政治学入門
3 年次	BCIS	◎ 人権論 ◎ 環境政治学 ◎ 東南アジア研究
4 年次	BCIS	◎ 戦争・平和論—安全保障と安定 ◎ 情報化時代の対外政策 ◎ 北東アジア研究 ◎ 学際研究プロジェクト (卒業論文)

\*開講科目は年度や学期毎に変更されます

# Bachelor of Contemporary International Studies ENVIRONMENTAL STUDIES

## 現代国際学部 国際環境学科

進路	CAREER OPPORTUNITIES
持続可能な環境を促すビジネス	Business - Environmental Sustainability Compliance
環境計画と政策企画	Environmental Planning and Policy Development
政府省庁	Government Departments and Agencies
非政府組織	NGOs

TOEIC 730 / IELTS (Academic) 6.0 with no band score lower than 5.5



クリスティーン・マッカーシー講師

マッセイ大学で地理学修士号取得。学部課程では「自然災害と危機管理」「地球環境の諸問題」などを講義。環境問題の解決にあたり、「世界中の成功例を参考にすることでなく、分析的思考力をもって検討すべき」と唱える。

### 環境問題 — いま私たちにできること

理論にとどまらない実践的な環境プログラムです。自然保護局 (DoC) の専門家が行う、絶滅危惧種などを対象としたニュージーランド固有の動植物の自然保護活動を視察したり、リサイクル事業を行う企業を訪問したりすることもあります。世界各地でエコツーリズム (環境保護との共存を目指す観光開発) が注目されていることを受け、近年では「エコツーリズム入門」も開講しています。卒業論文では、出身国の環境問題を、学際的視点から見てどのように解決できるかを検討します。



### 非核国ニュージーランドはエコ先進国

核を一切保有しないニュージーランドはエコ先進国でもあり、政府が一丸となってエネルギー資源、リサイクル、自然環境保全、絶滅危惧種保護などのプロジェクトに取り組んでいます。特に発電部門では、総発電量に占める水力、地熱、風力など再生可能エネルギーの割合が実に77% (2011年度) にも上ります。本学の位置するマナワツ地域には、南半球最大規模の風力発電所が電力3社によって計300基近く設置されており、キャンパスからもその威容が一望できます。

### ■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程 (最長1年間) ※国際環境学科の卒業単位には含まれません。
2 年次	BCIS	◎ 環境学入門 ◎ 環境学入門II ◎ 人間環境学
3 年次	BCIS	◎ 環境モニタリングと評価 ◎ 自然災害と危機管理 ◎ 農村環境システムとマネジメント ◎ 都市環境システムとマネジメント
4 年次	BCIS	◎ 生物保全学 ◎ 地球環境の諸問題 ◎ 学際プロジェクト (卒業論文)

\*開講科目は年度や学期毎に変更されます

# Bachelor of Contemporary International Studies LANGUAGE STUDIES / TESOL

現代国際学部 言語研究 / 英語教授法学科

進路	CAREER OPPORTUNITIES
言語教育	Language Teaching
政府組織	Government Departments
在外公館	Embassies
翻訳	Translation

TOEIC 730 / IELTS (Academic) 6.0 with no band score lower than 5.5



ジョハナ・エイチソン講師

オタゴ大学法学部卒業後、法廷弁護士、そして高等裁判所の事務弁護士として法曹界に身を置くものの、文学と教育に対する思いが強く、ビクトリア大学でクリエイティブライティングの修士と教員資格を取得。マッセー大学での教職を経て、現在IPCで教鞭を執る。

## 言語のスペシャリストと英語教師を目指す

言語のさまざまな側面を、「異文化間コミュニケーション」「言語研究」「国際語としての英語」などの科目を通じて学びます。言語のスペシャリストとして通訳・翻訳者を目指します。「言語教授法」などの専門科目を通じて英語教師を目指すこともできます。在学中にIELTS (アイエルツ) 8.0を取得すれば、世界で広く認知された英国トリニティカレッジロンドン認定の英語教授法プログラム (詳細は下記参照) を修了することも可能です。



### 英語教授法 (TESOL) 短期プログラム

英国トリニティカレッジロンドン認定の英語教授法プログラム (6週間) を毎年開講しています。受講開始にはIELTS (アイエルツ) アカデミック版で7.5という極めて高い英語力が求められるため、英語力を伸ばす目標としてみてはどうでしょうか。期間中は、朝から夕方まで講義と教育実習が休む間もなく予定に入っており、夜は翌日の実習準備を行う必要があるなど、密度の濃いコースで知られています。ネイティブスピーカーであるニュージーランド人でも苦労するほどの厳しさです。

### ■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程 (最長1年間) ※言語研究 / 英語教授法学科の卒業単位には含まれません。
2 年次	BCIS	◎ 言語と文化入門 ◎ 異文化間コミュニケーション ◎ 現代短編小説
3 年次	BCIS	◎ 言語研究 ◎ 国際語としての英語 ◎ 文学から見たアジア太平洋文化
4 年次	BCIS	◎ 言語教授法 ◎ 初學者教授法 ◎ 文学と大地 ◎ 学際研究プロジェクト (卒業論文)

\*開講科目は年度や学期毎に変更されます

### ジリアン・クラリッジ学部長

英ケンブリッジ大認定英語教授法資格 (CELTA)、英ランカスター大でフランス語学大学院サーティフィケート、英セント・アンドリュース大でロシア語学・文学修士号 (優等)、ビクトリア大で応用言語学修士号および博士号をそれぞれ修めるなど、語学習得と言語教授法のスペシャリスト。



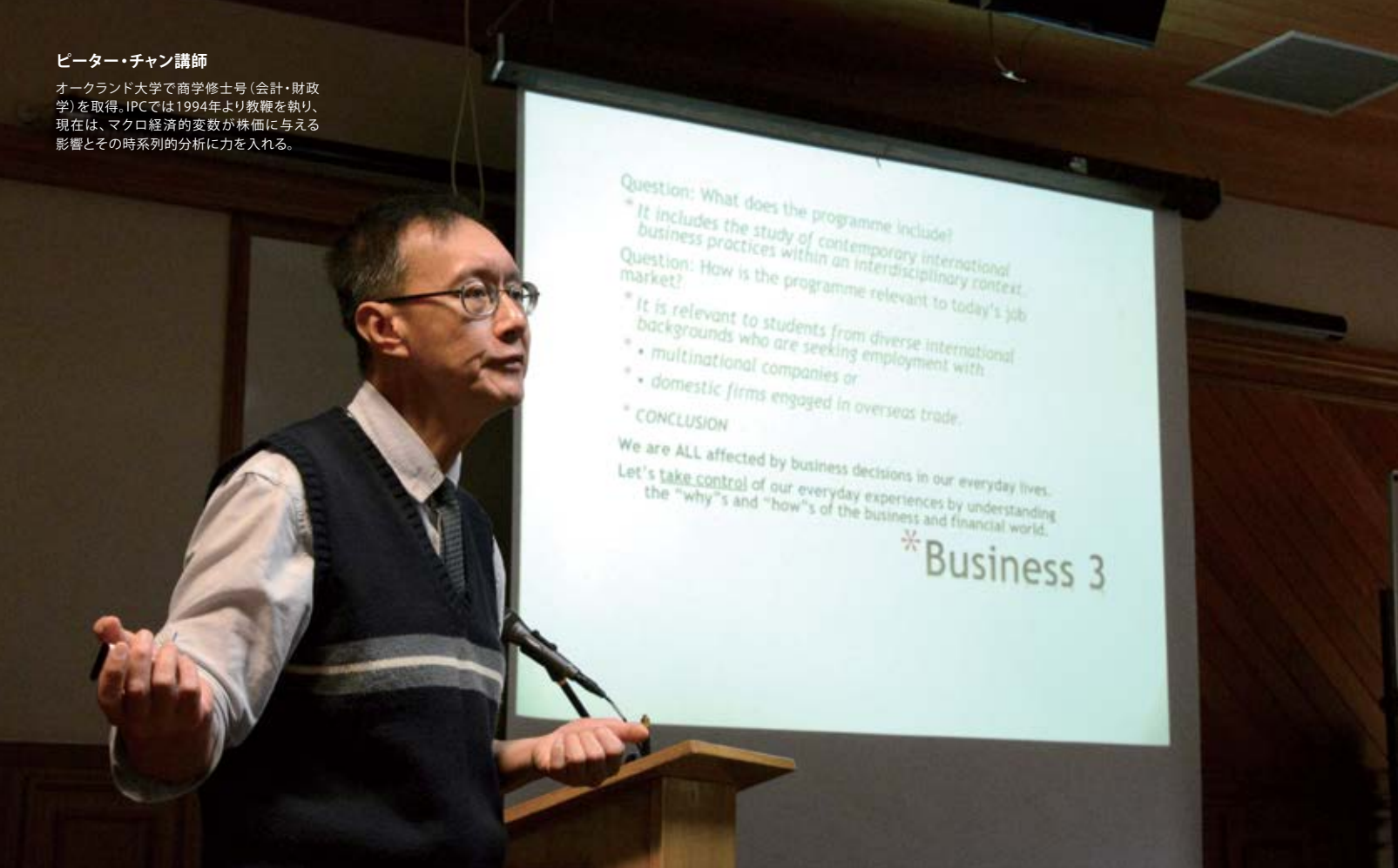
# WE TEACH TEACHERS

## HOW TO TEACH ENGLISH

There are a variety of TESOL qualifications offered at IPC. IPC offers Diploma and Certificate programmes accredited by Trinity College London, as well as IPC's own short course for international English teachers to improve their English-teaching abilities.

ピーター・チャン講師

オークランド大学で商学修士号(会計・財政学)を取得。IPCでは1994年より教鞭を執り、現在は、マクロ経済的変数が株価に与える影響とその時系列的分析に力を入れる。



# Diploma of International Studies BUSINESS COMMUNICATION

国際総合学部 ビジネスコミュニケーション学科

## コミュニケーション力を鍛え『ビジネス』に繋げる

ビジネスとコミュニケーションの2つを同時に学ぶプログラム。企業のビジネスモデルを参考に起業を想定し、マーケティング、簿記、宣伝広告など、どのようにビジネスを立ち上げ運営していくかを学んでいきます。ビジネスは国が変われば文化背景や言葉、マナーも異なり、国際社会で活躍するには臨機応変な対応が求められます。本学の国際的な環境を最大限に活用しながら、「起業家への道」を歩むために学び、備えます。



### 起業プロジェクト I・II

ニュージーランドの法律の下に実際に起業します。過去には自動車関連部品の輸入事業や英日翻訳事業を立ち上げたグループもあり、起業志向の強い学生が参加します。学内では学生会が運営する「ビジネス委員会」が活動しており、多国籍の在学生たちが授業を通じて学んだ知識を活用する貴重な場となっています。

### ■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程(1年間) ※ビジネスコミュニケーション学科の卒業単位に含まれます。
2 年次	DIS	◎ ビジネスコミュニケーション入門 ◎ ビジネスコミュニケーション I ◎ ビジネス基礎 I
3 年次	DIS	◎ ビジネス実習 ◎ ビジネスコミュニケーション II ◎ 起業プロジェクト I ◎ ビジネス基礎 II
4 年次	DIS	◎ 起業プロジェクト II ◎ ビジネスコミュニケーション III ◎ メディアに見るビジネス問題 ◎ ビジネス研究プロジェクト

\*開講科目は年度や学期毎に変更されます

# Diploma of International Studies TOURISM

国際総合学部 観光学科

## 世界の『観光・旅行業界』についての知識を習得

観光・旅行業界に求められる基礎的な理論と実践力を身につけ、異文化環境で求められる国際的感性と、ホスピタリティー業で不可欠とされる「単なる英語力にとどまらないコミュニケーション力」を養います。いずれも、ホテルなどの宿泊施設や旅行代理店の人事担当者が求める人材像と言えるでしょう。ツアー会社や観光施設などで実地経験を積む科目の履修が必須です。観光学科はこれまで、外資系を含む大手ホテル等に卒業生を多く輩出しています。



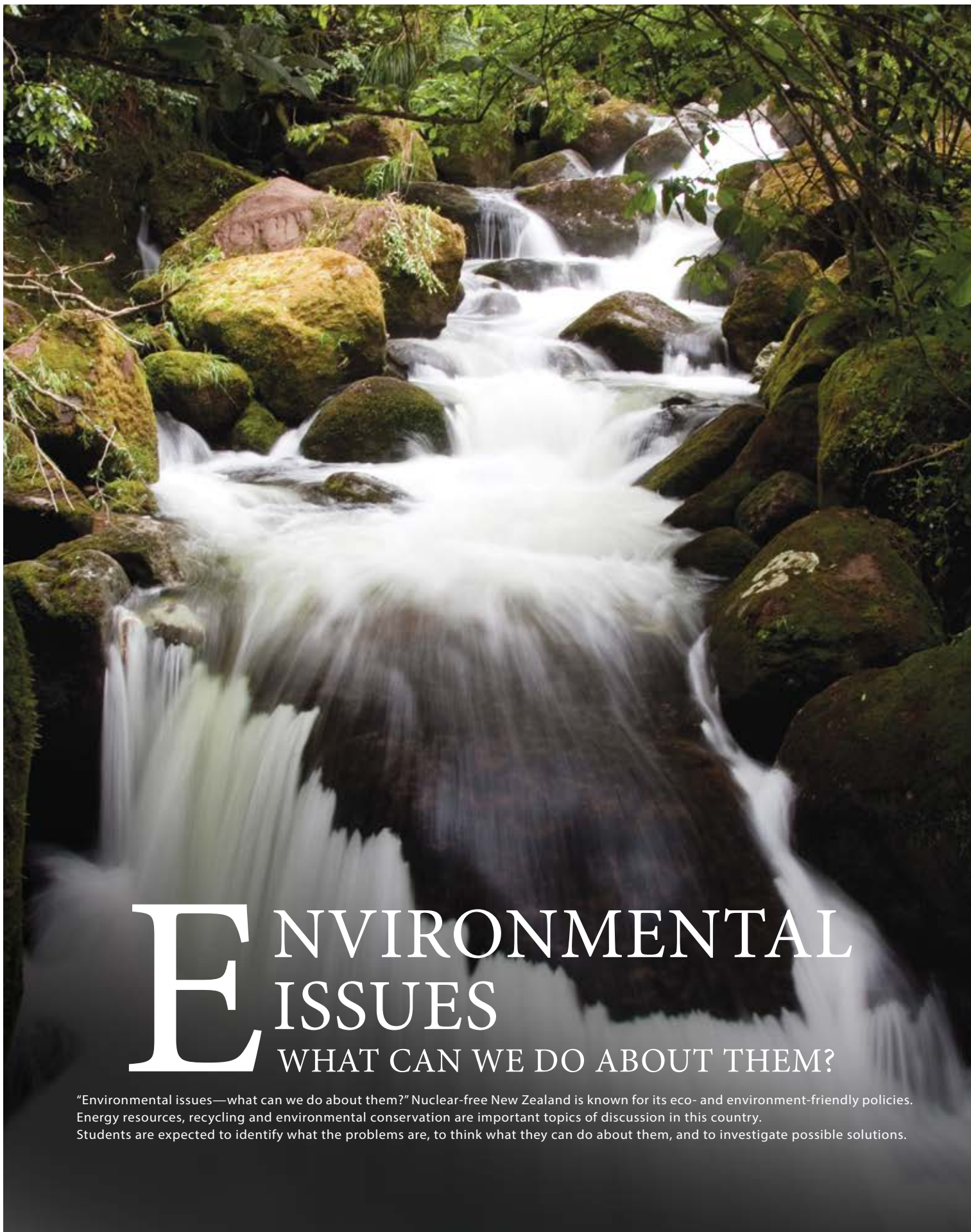
### フィールドトリップで顧客を想定

冬はスキーやスノーボード、夏はアウトドアアクティビティで世界中から観光客が押し寄せるニュージーランド。各地での実地研修や一流のホスピタリティーが学べるのも観光学科の魅力の一つです。フィールドトリップではニュージーランドの独特なアクティビティを体験し、顧客を想定したサービスの提供を考えます。自らが肌で感じ顧客と同じ立場になって考えることも授業では重要視されています。

### ■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程(1年間) ※観光学科の卒業単位に含まれます。
2 年次	DIS	◎ 観光学入門 ◎ 観光業の歴史と発展 ◎ 観光地と観光商品
3 年次	DIS	◎ エコツーリズム ◎ ホスピタリティー産業 I / II ◎ 観光企業実習 I / II ◎ 観光業がもたらす影響
4 年次	DIS	◎ 旅行代理業運営論 ◎ ホテル経営論 ◎ 航空業界研究 ◎ 観光学研究プロジェクト(卒業研究)

\*開講科目は年度や学期毎に変更されます



# ENVIRONMENTAL ISSUES

## WHAT CAN WE DO ABOUT THEM?

"Environmental issues—what can we do about them?" Nuclear-free New Zealand is known for its eco- and environment-friendly policies. Energy resources, recycling and environmental conservation are important topics of discussion in this country. Students are expected to identify what the problems are, to think what they can do about them, and to investigate possible solutions.

### ロス・カッセルズ講師

森林学学士、開発学修士。専門は南太平洋島嶼国の森林開発・保全。専門家として長年滞在したソロモン諸島では、熱帯雨林の医薬品への活用方法を提言するなど、自然保護を視野に入れた持続可能な開発に尽力。



- Environmental Studies Major:**
- Business and politics have a big influence on our environment
  - In environmental studies we study the connections between business & environment, politics & environment, society & environment, ecotourism & environment
  - Practical approach, using current every-day environmental issues

## Diploma of International Studies ENVIRONMENTAL STUDIES

国際総合学部 環境学科

### 環境問題に関する見識を深める

「都市部の環境問題Ⅰ・Ⅱ」「絶滅危惧種の保全」などの科目を通じ、環境問題について検討していきます。「グリーン製品とテクノロジー」では、リサイクルの過程で何が再利用され、それがどのような製品に生まれ変わるかを具体的に追っていきます。フィールドトリップでは、絶滅危惧種であるニュージーランドの国鳥で、飛べない鳥として知られる「キーウィ」がどう保護されているかを見学する等、ニュージーランドの環境保全への取り組みについて理解します。



### ニュージーランドの大自然から学ぶ

本学のあるパーマストンノース郊外の丘陵地には風力発電施設があり、300基近くの風車がそびえ立っています。南半球で最大規模となるこの施設は、ニュージーランドが国を挙げて自然保護を押し進める政策の象徴と言えるでしょう。こうした具体的な活動例を間近に見て理解しながら、留学生たちは自国を振り返って出身国の環境問題を改めて検討し、リサーチや議論を通じて環境保全問題に取り組みます。

### ■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程(1年間) ※環境学科の卒業単位に含まれます。
2 年次	DIS	◎ 環境学入門 ◎ 都市部の環境問題Ⅰ ◎ ニュージーランドの環境保全
3 年次	DIS	◎ 都市部の環境問題Ⅱ ◎ 絶滅危惧種研究 ◎ ビジネスと環境 ◎ 絶滅危惧種の保全
4 年次	DIS	◎ 地域・地球環境論 ◎ グリーン製品とテクノロジー ◎ メディアに見る環境問題 ◎ 環境学プロジェクト(卒業研究)

\*開講科目は年度や学期毎に変更されます

# DEDICATED EDUCATORS

## 教授陣紹介

### 選び抜かれたプロが教える国際クラス

国際色豊かな教授陣はまさに大学の顔。国際教育を実践するIPCの教授陣の出身国は、ニュージーランド、英国、オーストラリア、米国といった英語圏はもちろん、ドイツ、フランス、ロシア、中国、台湾、フィリピン、マレーシア、インドネシア、イラン、南アフリカなどに及び、在学生にも劣らない国際的な顔ぶれの教員が教鞭を執っています。

いずれの教員も、英語教育、国際ビジネス、国際関係、環境、言語研究などの専門分野においてニュージーランド内外で研鑽を積んだ、「教員」の顔と「研究者」の顔を持ち合わせる高等教育のプロです。在学生一人ひとりへの教育に情熱を持って取り組みながら、国際教育を全力で進めています。

Bachelor of Contemporary International Studies/  
Master of International Studies

Dr Gillian Claridge  
Dr Rashid Ameer  
Dr Maurice Judd  
Dr Nonna Danchenko  
Prof Masaaki Kuboniva  
Mr Masaki Oda  
Dr Toshiyuki Nakanishi  
Dr Ling Guan  
Dr Elizabeta Tarasova  
Dr Nathan Ehambaranathan  
Dr Karine Chagne  
Prof Brian Springett  
Dr Maureen Syn  
Dr Robert Khan  
Mr Neil Bond  
Mr Taku Saito  
Mr Toshifumi Taniwaki  
Mr Peter Chan

Mr Ross Cassells  
Ms Karen Dunn  
Mr Marveys Ayomi  
Mr Stephen O'connor  
Ms Johanna Aitchison  
Ms Stephanie Merkens  
Mr Brent Norrish  
Ms Nirosha Seelaratne  
Ms Virginia Vasconcellos  
Mrs Leillarna Kingsley

Dr Xiang Gao  
Dr Robert Sweo  
Dr Farzana Gounder

Diploma of International Studies

Ms Dana Taylor  
Ms Pamela Peters  
Ms Christine Muckersie  
Mr James Buchanan  
Ms Sharon Spencer  
Mrs Leanne Hickman

Ms Jan Welsh  
Mr Don Pybus  
Mrs Rebecca Buchanan

Foundation Programme

Mr Brendon Chapple  
Mr Stewart Holdaway  
Mr Gareth Williams  
Ms Kerstin Meinecke  
Mr Randall Heldreth  
Ms Hueywei Chen Williams  
Mr James Lourie  
Ms Wilda Ribka  
Mr Aaron Mai  
Mr Nathan Williams-Prince  
Mr Glenn Wickins  
Mr Joseph Curran  
Ms Colleen Bennett  
Ms Belinda Guy  
Ms Nicholas Partridge  
Mr Andrea Huege  
Mr Daniel Rademaker

### 来賓講演者

国際教育を推し進めるIPCでは、各国の現職大使をはじめとする外交関係者、ニュージーランド政府関係者、国際ジャーナリストらを招いた講演会を定期的に開催しています。在学生はそうした講演会を通じて各国の政治・経済戦略や外交方針を身近に感じ、視野を広げることになります。さらに、入学式典と卒業式典にも、そうした人物を基調講演者として招いています。2011年11月には、ニュージーランドのジョン・キー首相がパーマストンノース訪問の際、IPCのキャンパスを視察に訪れ、多くの教職員と在学生が首相に面会し、意見交換を行う機会を得ました。

### 来賓講演者紹介



マーティン・ホランド教授

ニュージーランド・欧州連合 (EU) 学会会長であり、カンタベリー大学欧州研究センター所長。本学では「21世紀のEUが抱える課題」と題した講演会を開催。国内7大学からなる「ニュージーランドEUセンターズネットワーク」設立の際の中心メンバー。



ミハリス・ロカス氏

駐ニュージーランドEU (欧州連合) 代表部代理大使であるミハリス・ロカス氏が、IPC生および教職員に対し「EU (欧州連合): 過去・現在・未来」というテーマで講演。EUの国際関係政策のもたらすチャンス、およびその課題点について言及。



ホゼ・アントニオ・モラト・タヴァレス氏

駐ニュージーランド・インドネシア大使・ホゼ・アントニオ・モラト・タヴァレス氏がIPCを訪問し「インドネシアの外交政策」と題した講演会を開催。試行錯誤を重ねる同国の国際関係政策の今後の展開について等の講義内容を展開。



ノッパドン・テッピタック氏

タイ国の駐ニュージーランド大使。「スマートパワー: パートナーシップの新时代的のタイ、そしてニュージーランド」をテーマに講演。東南アジア諸国連合 (ASEAN)、アジア太平洋経済協力 (APEC)、東アジアサミット (EAS) についても言及。



ジョン・マッキノン氏

ニュージーランドの元国防事務次官で、駐中国大使などを歴任した国防・外交分野のエキスパート。現在は「アジア・ニュージーランド基金」理事長。本学では「地域安保から見た中国の戦略ーニュージーランドへの影響」と題した講演会を開く。



ピーター・ケネディ氏

韓国、ベルギー、ルクセンブルク、ブルガリア、ルーマニア、欧州連合にニュージーランド大使として駐在。2009年に北大西洋条約機構ニュージーランド代表としてアフガニスタンを訪問。第一次湾岸戦争の際には国際問題担当補佐官として当時の首相を補佐。



ダグラス・キッド卿

ニュージーランドの元国会議長。1978年に南島マルボロ地区から国会議員に初立候補し、以後1999年まで8期連続当選。その間、水産相、エネルギー相、労働相などを歴任した。2000年にメリット勲章、2009年にはナイトの爵位を受ける。



イアン・マッケルビー氏

ランギティキ地区選出国会議員で、綱紀粛正委員会、第一次産業委員会、規制検討委員会の各委員。議員当選前は、マナワツ地域の知事を9年務める。農村地出身で農協幹部だった経験から、「持続可能な農業」について造詣が深い。



ヨンギユ・パク氏

ニュージーランド駐割大韓民国大使。「朝鮮半島、韓国=ニュージーランドの二国間関係」と題し、膠着した朝鮮半島の緊張状態を解く上で、アメリカ・日本・中国の果たす役割は大きいと講演。韓国とニュージーランドの協力関係の更なる発展を呼びかける。



バージニア・ホンラド・ペナビデス氏

ニュージーランド駐割フィリピン共和国大使。「21世紀におけるフィリピン=ニュージーランドの二国間関係」について講演。両国の関係強化のために、様々な課題をともに乗り越えて行きましょう、と訴えかけた。



アイヤル・ジッサー氏

イスラエルのテルアビブ大学人文学部学部長。シリア・レバノン史・政治の専門家として本学では中東の歴史と政治状況、文化や宗教的背景、人口問題といった全体像について語り「アラブの春」について講演を開いた。



デビッド・ヒューブナー氏

米国の駐ニュージーランド大使。「太平洋の世紀における安全保障と通商問題」について講演。米国とニュージーランドの両国間の交流、投資、インフラ、軍事、文化状況の両国関係の深化といった協力の成功例について概括した。

# POSTGRADUATE STUDIES

## 国際総合大学院

### 進路

コーポレートマネジメント  
ファイナンス  
ビジネス  
マネジメント  
マーケティング

### CAREER OPPORTUNITIES

Corporate Management  
Finance  
Business  
Management  
Marketing



ラシード・アミーア博士

英セントラルイングランド・バーミンガム大(現バーミンガム・シティ大)で経営学修士号、英アストン大で財政学修士号。学部課程で「経済学原論」「多国籍企業経営論」「国際ビジネス・インターンシップ(企業研修)」などを担当。大学院でも「ビジネスと環境—企業の社会的責任」を講義している。

### 『学際研究』で学ぶ国際総合大学院

ビジネスと環境、政治と科学を学際的に学ぶ大学院課程で、「狭い範囲のスペシャリスト」というよりも、むしろ「幅広い基盤と対応力を持った人材」の育成を目指しています。1年次はそうした分野を講義中心に学び、修士論文のテーマを絞っていきます。2年次には、リサーチまたは企業内プロジェクトを行い、指導教員の助言を受けながら論文を完成させることで、国際学修士号が得られます。

1年次のみを修了して卒業することもでき、その場合には「国際学大学院ディプロマ」が授与されます。



インドネシア大使館勤務  
サティア・デュヒタ/インドネシア出身  
2000年度卒業生

### 幅広い基盤と対応力を持った人材を育成

少人数制を保ちながら多国籍の在学からなる国際総合大学院では、各国から集った同級生との切磋琢磨によりグローバル感覚を養うことができるとともに、学際研究を通じて幅広い知識が得られます。指導教員は全員が博士号取得者で、それぞれの専攻分野も、財政学、化学、経営学、政治学、動物学と多岐に及びます。修士課程修了後は、母国に戻って博士課程へ進むケースが多いほか、在ニューージーランド大使館に採用された卒業生もいます。

英語力要件 TOEIC 800点 IELTS 6.5

※詳しくは「国際総合大学院案内(英文)」をご請求ください。

### ■ 主な開講科目

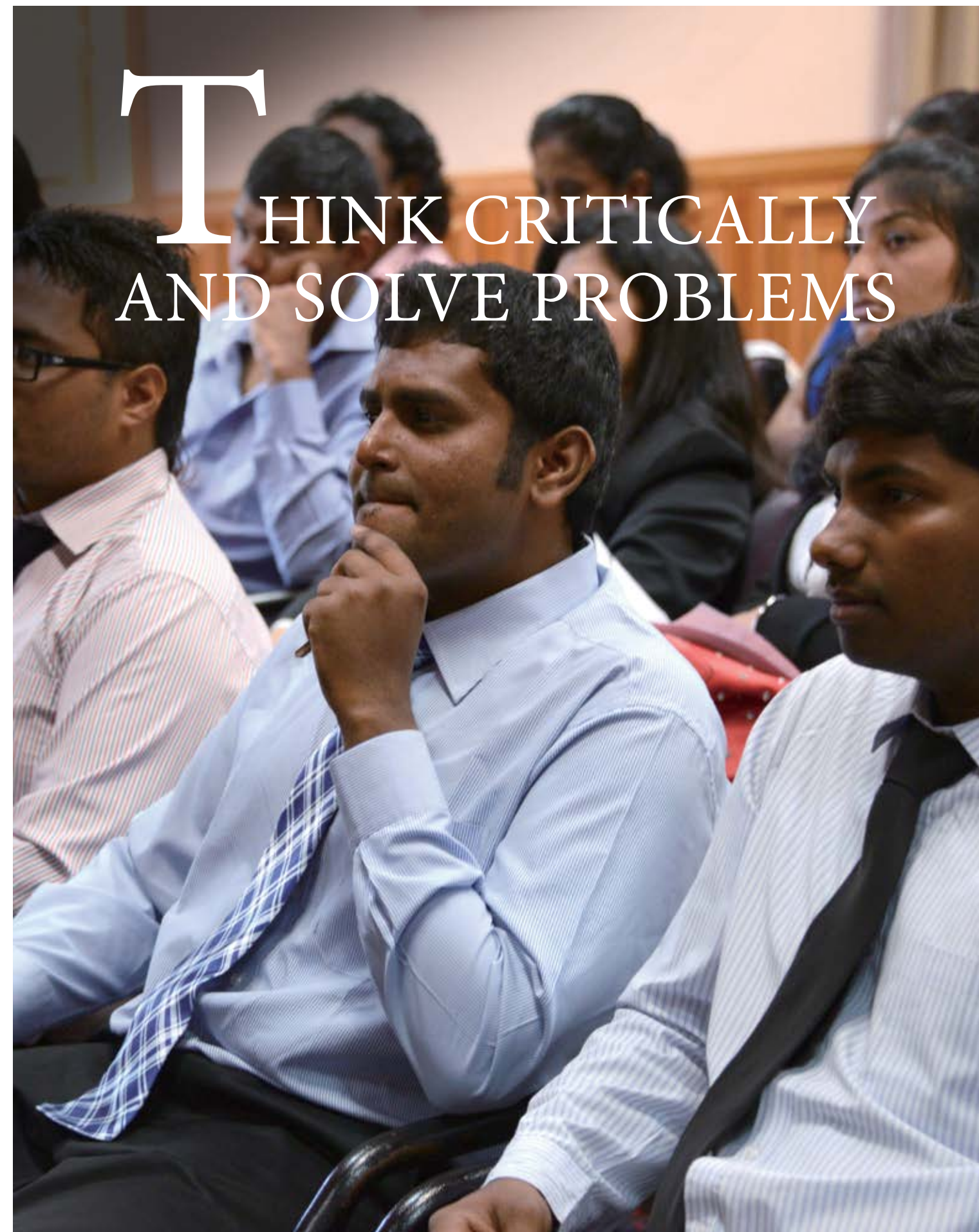
#### 国際学大学院ディプロマ (PDIS)

- 1年次
  - ◎ ビジネスと環境—企業の社会的責任
  - ◎ 政治と発展
  - ◎ 人類と大地—その持続可能性
  - ◎ 科学・環境と政策立案
  - ◎ 資源管理論

#### 国際学修士号 (MIS)

- 1年次
  - ◎ 国際学大学院ディプロマに相当
- 2年次
  - ◎ 修士論文

\*開講科目は年度や学期毎に変更されます





# INTERNSHIP PROGRAMME

## インターンシップ

### グローバル化時代の『社会人基礎力』の重要性

大学に在籍しながら、企業や団体で実務研修を行うことができる実践的なプログラムです。円滑なコミュニケーション力や臨機応変さが求められる国際社会では、インターンシップでの経験が大きな自信に繋がります。語学力を磨くだけでなく、実務経験を高め、社会人としての一步を踏み出します。将来、就職先となる可能性のある企業や専門団体とのネットワークを築き、就職の可能性を高めましょう。研修先からの評価が高い学生が、ジョブオファーを受けることも少なくありません。

### 国際ビジネス・インターンシップ

現代国際学科の科目として開講されているもので、企業での実地訓練を通じて、ビジネスへの理解と経験を深めます。履修するためには、高度な英語力とリサーチスキルがあることを事前に証明しなければなりません。そのハードルをクリアすれば、国際的な優良企業などでのインターンシップが可能になります。修了後は、履歴書に経験として反映されるだけでなく、業界内でのネットワークも広がり、就職にも有利になります。



## 提携先企業一覧

### ■ ホテル

Hotel Coachman  
Kingsgate Hotel  
Palmerston North Motel  
Pavilion Motel

### ■ アート・レジャー

Centrepoint Theatre  
Creative Sounds Inc.  
Marineland  
School of Dance  
Taylor Jensen Fine Arts  
The National Aquarium of New Zealand

### ■ 不動産

JVL Real Estate

### ■ フードサービス

Bangkok Thai  
Café Cuba  
Chada Thai  
China Inn  
Coco The Chocolate Cafe  
Coffee Club

Coffee On The Terrace  
Creative Caters  
LA Coffee Shoppe & Bakery  
Marbecks Cafe  
Robert Harris Cafe  
Thai House  
The Bean Cafe  
The Brewers Apprentice

### ■ 販売・サービス

Bond & Bond Ltd  
City Rock  
Cottage Flowers  
Desktop Tech  
DTR  
Forget-Me-Not Flowers  
Hardy's Healthy Living  
Harvey Norman  
K Mart  
New World Aokautere  
GQ Clothing  
Guthrie Bowron  
Kelly's Supermall  
Ocean and Ice  
Pete Lamb Fishing  
Ruapehu Health

Spectra Hair & Body  
The Body Shop  
The Flowerman Ltd  
The Pet Care Company  
Tranzit  
Trumps Fashions  
Unichem Chemist  
Vautier Pharmacy  
Wet Pets & Country Pets

### ■ 銀行・金融

Broadbase  
Money Managers  
Westpac

### ■ 自動車販売・整備

DP Tyres Ltd  
Kennard's Collision Repair  
Roskilda Autos

### ■ 教育

Lollipops Educare  
Takaro Kindergarten  
Tiritea School  
Young Hearts Educare

### ■ 印刷・写真・現像サービス

K & M Print  
Picture Perfect Photography

### ■ スポーツ

IPC Recreation Centre  
Manawatu Golf Club  
Manawatu Martial Arts Centre

### ■ 官公庁・団体

Convention Centre  
Department of Labour  
Horizons Regional Council  
Manawatu Volunteer Resource Centre  
New Zealand Rugby Museum  
RSA  
Salvation Army Family Store  
SPCA  
Summerset Rest Home  
Trade Aid



ソフトバンク株式会社就職 / 樋口真美 (2014年卒業)



株式会社ニトリ就職 / 舟木智美 (2014年卒業)



JR東日本就職 / 赤平拓朗 (2012年卒業)



オークネット就職 / 渡邊真菜花 (2013年卒業)



マンダリンオリエンタル東京就職 / 松本かやの (2012年卒業)



インターナショナルアシスタンス株式会社就職 / 横山裕理江 (2014年卒業)



ザ・ペニンシュラ東京就職 / 石川洋平 (2013年卒業)



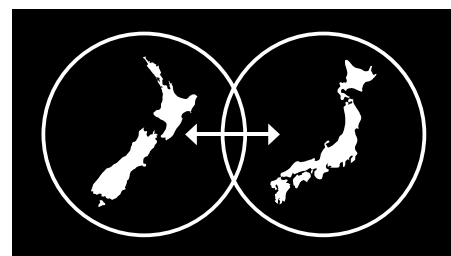
京セラドキュメントソリューションズ就職 / 金村一樹 (2011年卒業)



パークハイアット東京就職 / 植田祐樹 (2013年卒業)



株式会社JTグローバルマーケティング&トラベル就職 / 小河柚香 (2014年卒業)



## CAREER SERVICES

IPC provides students with support for their career planning and employment opportunities, giving them a competitive edge in the globalised human resources markets. IPC students can receive advice and guidance from certified career counsellors/advisors, and participate in work experience/internship programmes, in Japan, as well as in New Zealand.

### キャリアサポート

## 『日本人』として世界で活躍するためのキャリア教育指導

### どのような人生を送るために、どのような仕事を選ぶのか

IPCのキャリア教育の考え方は「グローバル化時代に即応する国際人の育成」「キャリア形成支援」「進路・就職指導に関するきめ細やかな対応」、そして「自立のための教養教育」が軸です。ビジネスのグローバル化が進化する今、ビジネスで使える英語力、異文化コミュニケーション力を駆使し、自らがアイデアを出し、創造力、企画力、行動力、調整力を駆使しながら交渉の舞台に立ち、それを形にしていけることが今後ますます必要とされることでしょう。その意味で、企業からのIPC生に対する潜在的ニーズは高まっています。

## 『ニュージーランド』『日本』の両国からの就職支援

### 他大学を凌駕する就職支援サービスを目指す

IPCの就職支援サービスは、ニュージーランドのIPC本キャンパスと、東京・八重洲のIPCキャリアセンターが連携して行っています。IPC生は日々の学習や現地企業でのインターンシップ等を通じてグローバル人材としての能力を磨く一方、「自己分析・適職診断」「就職ガイダンス」「個別面談」「エントリーシート・履歴書作成指導」「模擬面接(個別および集団)」「内定者座談会」「企業幹部・人事担当者講話」など、様々な就職支援サービスを受けることができます。



恩庄俊雄 / スチューデント・ガイダンス・オフィサー

### HAVE - DO - BE

何を持つより、何をやるのが大切。  
何をやるより、どう在りたいかが一番大切。

海外の大学で学ぶ私達の学生は、当然の事ながら「英語力」が一番の武器になります。大切な事はその「英語力」をどう活かすかです。しかし、それよりも大切にしているのは「どのような人間」で在りたいのかという事です。社会に貢献する人材になる為には「英語力」だけでは不十分です。同時にプラスαの部分は個人の求める将来像によって異なります。IPCのキャリアサポートは一人ひとりのニーズに対応し、自信を持って社会に送り出す事を指導理念としています。

### ■ キャリアサポート一覧

#### ■ IPCキャリアセンター(日本:東京・八重洲)

- ◎ 日本国内の企業・求人情報の収集と学生への情報配信
- ◎ 企業人事担当を迎えての会社説明会
- ◎ 日本の就職状況・動向について説明するキャリアセミナー
- ◎ 履歴書・エントリーシート指導
- ◎ 面接・マナー指導
- ◎ 卒業生への相談・就職指導

#### ■ IPCキャリアサービス(ニュージーランド)

- ◎ 個別進路面談
- ◎ 内定者による就職活動セミナー
- ◎ 履歴書指導
- ◎ 面接・マナー指導
- ◎ インターンシップの紹介
- ◎ 海外就職希望者への説明会



# NEW ZEALAND

## ニュージーランド

New Zealand offers an ideal learning environment for international students. While pursuing academic excellence at quality educational institutions, they can enjoy various activities that include outdoor experiences in the beautiful natural environment. They can also interact with New Zealanders, known as 'Kiwis', who are well-known for their hospitality toward visitors from all over the world.



### 大自然の中で育まれる豊かな人間性

南半球にあるニュージーランドは多民族が暮らす多文化国家。日本とは季節が逆になり、真夏のクリスマスに驚く留学生も多く見られます。国鳥である飛べない鳥「キーウィ」は日本でも知られた存在ですが、ニュージーランドで最も愛されている鳥「キーウィ」は、この国の代名詞ともなり、ニュージーランド人自身のことを敬称で「キーウィ」と呼ぶこともあります。鳥自体は今では外来種の影響で絶滅の危機にあり、その姿はニュージーランドでも一部の動物園や動物保護区でしか見られなくなりました。ニュージーランドには英国系ニュージーランド人や先住民マオリをはじめとし、アジア諸国や南太平洋諸島などからの移住者を含む440万人が暮らしています。古くからの先住民であるマオリ族は、今から1000年ほど昔に、幻の鳥「モア」など鳥獣の天国だった未開のこの地に、ポリネシアから大型カヌーでたどり着いたと伝えられています。自然と共存したマオリの生活

スタイルは、今でも靴を履かずに裸足で街中を歩く姿や、マオリ民族固有のデザインをタトゥーとして体に刻む人を見かけるなど、そのDNAに記憶されています。観光や酪農で有名なニュージーランドは起業家が多いビジネスの国でもあり、オークランドやウェリントン等の主要都市は商業やエンターテインメントの中心地となっています。またニュージーランドはアウトドア・アクティビティが盛んで、「バンジージャンプ」の発祥国として知られています。壮大な大自然は映画「ロード・オブ・ザ・リング」「ホビット」や「ナルニア国物語」の撮影地ともなりました。ニュージーランドでは、国全体を挙げて教育に取り組んでいます。世界でも有数の高い水準となっており、高度な教育を求めて世界各国から10万人もの留学生がニュージーランドで学んでいます。



### 学園都市パーマストンノース

IPCを含む高等教育機関が集まるパーマストンノースは、かつては「Knowledge City (知識の街)」、近年では「Student City (学生の街)」として知られています。ニュージーランド北島の南部、酪農で名高い緑豊かなマナワツ地方に位置し、人口8万人余りの国内7番目の都市です。大型ショッピングモールをはじめ、数多くのレストラン、カフェが立ち並び、映画館、美術館、劇場など文化施設、スポーツ施設も充実しています。特に街の中心にある「スクエア広場」は、市民の憩いの場所として人気。夜には美しくライトアップされるなど街のシンボルとなっています。パーマストンノースから首都ウェリントンまでは車で2時間、オークランドやクライストチャーチといった主要都市までは飛行機で1時間とアクセスが良く、ニュージーランド北島の交通の要所となっています。



# PALMERSTON NORTH

## パーマストンノース

The city of Palmerston North, New Zealand, hosts IPC and many other educational institutions. Students can enjoy various activities, including savouring the culinary delights of exotic countries, going to theatres, and shopping at myriads of stores, etc. The central park is called 'The Square', and it is a very popular place for the people of Palmerston North. The clock tower situated in the centre of the park is beautifully lit up at night.



## 学生の街へようこそ!

“パーマストンノース市を代表して皆さんを歓迎します”

100カ国以上の人々が暮らしているパーマストンノースの多文化、多国籍の輪が徐々に広がっている理由の1つはIPCの存在です。IPCが国際教育の業績で世界的にも承認されていることや、教職員の方々が、教育の世界で高評を得ていることは、IPCで学ぶ学生の皆様にとって非常に幸せなことです。

パーマストンノースの人々は、多文化をとっても大切に考えています。積極的に何事にも挑戦したり、参加することが大切です。自ら、人に話かけたり、クラブ活動に参加したり、友人や知り合いを応援することも必要です。これらは、お互いを知り合うにも、良い街作りのためにも大切なことです。

この街は学生の安全を最優先に取り組んでいます。昨今、パーマストンノースはWHO(世界保健機関)に「安全な街」と公認されました。市議会も街の民間団体も、常にパーマストンノース市を良くするために頑張っています。

母国に帰る日、ご両親が子供たちの成長した姿を目の当たりにし「ここに送って良かった」と思えたら幸いです。皆様の夢が叶えるように願っています。

パーマストンノース市長  
グラント・スミス



*We Love Palmy.*

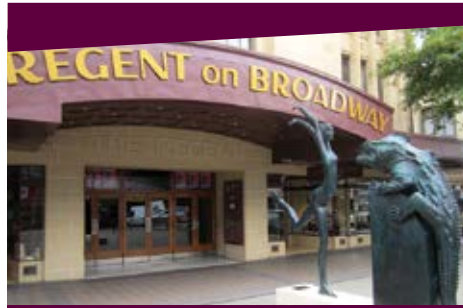




## Museums

### テ・マナワ美術博物館

美術館と博物館が一体となった「テ・マナワ」では、美術、歴史、科学の3分野に関する展示が行われています。ニュージーランドとパーマストンノース市の文化に触れることができる貴重な施設であり、授業の一環でここを訪れる生徒や学生の姿が多く見られます。



## Theatres

### リージェント・オン・ブロードウェイ劇場

1930年開館の映画館を改装した、荘厳な雰囲気を持つ文化ホールで、IPCの入学式や卒業式の会場になることもあります。各種コンサートや演劇、ミュージカルが連日のように開かれ、賑わいを見せています。



## Cinema

### 映画館

中央広場からすぐの「ダウンタウン・シネマズ」と「シネマゴールド」には合わせて10以上のシアタールームがあり、最新映画が毎日20本余り上映されています。毎年8月には国際映画祭が開かれ、日本の作品も毎年のように出品されています。



## Aquatic Centre

### リド・アクアティック・センター

パーマストンノース市が運営する大型スイミング施設で、水泳大会が開催される本格的な競技用屋外プールや、屋内プールに加え、レジャー用プール、サウナやジム、児童用遊戯施設、カフェも設置されており、IPCの学生やスタッフも利用しています。



## Shopping Centre

### プラザ・ショッピングセンター

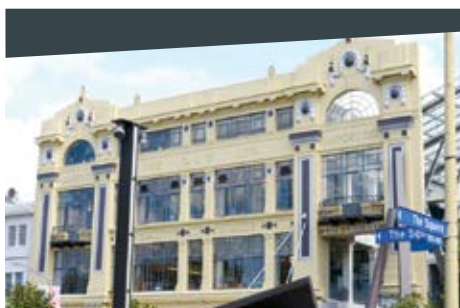
ファッション、雑貨、カフェ&レストラン等、100店舗以上が集まる大規模ショッピングモール。老舗デパートやディスカウントストア、大型スーパーとも隣接しており、パーマストンノースと周辺地域のショッピングの中心地となっています。



## Statues & Sculptures

### 建築物と公共彫刻

エリザベス女王も宿泊された由緒あるホテルや、アールデコ調の建築が保存されているかたわら、市立図書館のようなユニークな建築物もあります。また市は公共彫刻設置に力を入れており、様々なスポットで市民の目を楽しませてくれます。



## Library

### パーマストンノース市立図書館

充実した蔵書に加え、1階の多目的フロアではミニコンサートが開かれるなど、市文化発信の拠点になっています。大きくとられた窓ガラス沿いの2階席はとてもゆったりとしており、日本の図書館には見られない雰囲気味わえます。



## Banks

### 銀行

ニュージーランドでは、エフトポス (EFTPOS) と呼ばれるデビットカードとほぼ同じシステムが発達しており、ほとんどの場所で使用できるため、現金を持ち歩かずに買い物をする事ができます。IPCでは入学後に、口座開設のサポートをしています。



## Medical Clinics

### 診療所

祝日を含めて毎日開業している診療所「シティ・ドクターズ」。予約なしで利用できる上、薬局も併設されているので、便利で心強い施設です。生命にかかわる緊急時には、救急車を呼び、総合病院の緊急外来で手当てを受けることもできます。



## Convention Centre

### コンベンションセンター

パーマストンノースはニュージーランドの真ん中に位置し、企業が本社を構えることも多いビジネス・流通の中心地でもあります。そのためコンベンションセンターではビジネス会議や学会も多く開催されます。



## Police Station

### パーマストンノース警察

市内中心地に本署、他4カ所に分署を置き、パーマストンノースの治安維持に努めています。厳格なイメージの警察官ですが、ニュージーランドならではのフレンドリーさも合わせ持ち、留学生にとっては気軽に助けを求められることのできる、心強い味方です。



## Weekend Markets

### パーマストンノースの土曜日と日曜日

パーマストンノースでは週末に2カ所で、それぞれサタデーマーケット、サンデーマーケットと呼ばれる市場が開かれ、新鮮な野菜や焼ききたてパン、手作りハチミツやジャム等の出店が立ち並びます。様々な国籍や人種の利用客が市場を国際色に染めています。



## Infomation Centre

### 困ったときの総合案内所 <i-Site>

国内に90カ所のネットワークを持ち、宿泊施設や交通機関、アクティビティの情報と予約ができる総合案内所 i-Site (アイサイト)。主要都市へは施設前の長距離バスから出かけることも可能。初めての一人旅も友人との旅行もまずはここから始まります。



## Public Parks

### ビクトリア・エスプラナード公園

ニュージーランド庭園協会にも認定されている美しいバラ園や植物園があります。広大な敷地を移動するための園内列車は子どもたちに大人気。休日にはランチやバーベキューを行う家族連れでにぎわうなど、名所ともなっています。



## Town Events

### 街を賑わす多文化イベント

アートイベントやパフォーマンスを行う場所を提供するために、大通りを通行止めにするなど、市を上げてイベントを盛り上げています。新年には、広場から花火が打ち上がり、市民が抱き合って祝う感動的なものとなっています。



## Rail Service

### パーマストンノースからゆったり鉄道旅行

長距離鉄道「ノーザンエクスプローラー」が首都ウェリントンから商業都市オークランドまで週3回運行されており、パーマストンノースからも乗り降りできます。ウェリントンでは南島行きフェリーに連絡しており、南島旅行の起点となっています。



## Post Shops

### パーマストンノース郵便局

国内郵便、国際郵便での荷物の発送のほか、絵はがきやワイン発送用ボックス等の販売、切手や封筒を自分用にカスタマイズするサービス (主にビジネス用) も行っています。銀行とATMも併設しているため、現金引き出し等も行うことが可能です。



## Cafes & Restaurants

### 若者で賑わうジョージ・ストリート

パーマストンノースの「ジョージ・ストリート」と言えば、地元の人なら必ず知っているカフェやブティックが立ち並ぶおしゃれなストリート。週末には、オープンカフェスタイルでコーヒーやエスニックフードを楽しむ学生の姿が多く見受けられます。

# C IPCキャンパス CAMPUS

## 美しいキャンパスで過ごす留学生活

パーマストンノースの高台に位置する国際大学IPC。東京ドーム16個分(20.5ヘクタール)のキャンパスは広大ながらも、すべての施設まで歩いていける距離にあります。ケガや病気の際には、ヘルスクリニックでドクターの処置や治療を受けることができます。キャンパスにはバス停があり、市内中心地まで約10分とアクセス良好。緑豊かなキャンパスでは、ニュージーランドでも希少な鳥類を見ることができ、勉強疲れの学生たちの癒しともなっています。

## 少人数制クラスを可能にする高等教育機関としての充実した施設

学生たちがしっかりと落ち着いた環境で授業を受けることができるように設計された教室は、日本で見られるような大講義室ではなく、一人ひとりの成長を育むための「少人数制クラス(最大20~25名程度)」に基づく設計。体育館は全学集会やクラブ活動等に利用され、スポーツジムも整備されています。ゲストハウスである「スワンハウス」では、パーティーやイベントを催すこともあり、ダンスや音楽を楽しむ学生のためには「環-Kan- Performing Arts Centre」が建造されるなど、IPCキャンパスでは学生たちのための施設が充実しています。



### 学生寮 <Halls of Residence>

10棟ある学生寮は男女別に分かれており、セキュリティも完備されています。各寮にはホールリーダーと呼ばれる学生寮長が学生サポート課の指導の下、各学生の寮生活を支援。学生寮は多文化環境の中で自分を成長させるための最高の環境です。



### レクリエーション・センター <Recreation Centre>

クラブ活動、全学集会、イベント会場、入学・卒業式のディナー会場などとして幅広く利用されています。また道場やウェイトマシンやトレッドミルなどの施設を誇るトレーニングルームがあり、在学生は夜遅くまでスポーツと体力づくりに動んでいます。



### 環 <Kan - Performing Arts Centre>

パフォーマンスアートセンターの館内はガラス張りの2フロアで設計されており、完全な防音設備が整っています。ダンス部や軽音楽部などの練習場所となり、学生が主催するイベント前には夜遅くまで懸命に練習する学生の姿が見られます。



### 図書館 <Library>

美しい緑の風景が眼前に広がる図書館は昼夜を問わず、在学生が課題やリサーチに取り組み勉強スペース。館内のセミナールームは、通常授業に加え、各種セミナーやクラブ活動のミーティングの場ともなっています。



### IPC事務局 <Administration Centre>

学生サポート課が常駐するIPC事務局には、母国からの荷物が届いた時の受取りから履修登録、保険の手続き、ホームステイの受付、英語の学習方法の相談、個人的な悩みの相談など、さまざまな理由で学生が訪れます。



### スワンハウス <Swan House>

国内外から訪れる各国大使や提携校からのゲストをもてなすスワンハウス。入学式や卒業式の保護者のための食事会もここで行われます。また、グローバルリーダーを志す在学生のミーティングも行われ、スーツ姿で出入りする学生の姿が見られます。

# SAFE & COMFORTABLE CAMPUS LIFE

## 安全・安心の『キャンパスライフ』

### 毎日の生活こそが留学の魅力

海外留学に興味があっても「どういった留学生活を送るのだろうか?」と不安を感じる人もいます。ただ海外で授業を受けるだけでなく、異国での日々の生活を含めて、初めて「留学」が成立するとIPCは考えます。学生寮や学生食堂、地元コミュニティも留学の舞台です。IPCではこの「生活面の留学」を重視し、安心で安全、そして有意義なキャンパスライフが過ごせるよう、学生を支援しています。フレンドリーな国として知られるニュージーランド。夢や目標を抱いてニュージーランドにきた留学生たちは、地元住民やニュージーランド人学生、多国籍の在学学生らの温かい歓迎を受けて、これからの国際大学IPCでの新しい挑戦をスタートします。



Students interested in studying abroad may feel somewhat anxious about living in a foreign country. IPC believes that 'studying overseas' is a holistic learning experience that includes both 'studying at school' and 'living in a new cultural environment'. At IPC, its Halls of Residence, Dining Hall, and local community are all equally important parts of the overseas experience. Based on this concept, IPC supports students by offering a safe, comfortable, and educational living environment on campus.

# ROOM WITH A VIEW TO THE WORLD

## 自立心を養う『寮生活』

### 国境を越えるIPCの『寮生活』

「寮」と聞いて連想するのは「門限」? それとも「規律」?

母国ではなかなか機会のない寮生活を、あえて海外で行い、文化や価値観の違う学生と同じ屋根の下で暮らすことで、視野が広がります。IPCの卒業生たちは「学生寮がよかった」「寮生活からたくさん学んだ」「私たちは家族のような存在です」と語ります。それは、苦楽を共に勉学に励んだり、一緒に食事をつくったり、ビデオを観たりと、それぞれのほんの小さな経験が積み重なっていることにほかなりません。そこで生まれた国境を超えた友情は、将来かけがえのないものとなるはずです。IPCに留学するということは、世界に深い繋がりを持つことに等しいのです。



### 学生寮生活は留学の基本

留学生活の礎をなす学生寮生活。キャンパス内には10棟の学生寮(男女別)があり、学生寮長を中心に、留学生同士の交流も盛んに行われています。夜にはセキュリティスタッフが巡回し、安全な寮生活を送れるよう努めています。

### 国際感覚を培う共同生活

留学の醍醐味のひとつは、国籍や文化の異なる仲間との共同生活。徒歩で気軽にお互いの部屋を訪ねたり、共に課題に取り組んだり、お互いの母国の料理でもてなしたり。多文化環境のキャンパスライフが国際感覚を培います。

### キャンパス内のバス停から街へ

キャンパスの学生寮前にはバス停があり、市営バスが運行し、パーマストンノース中心部までは10分ほど。ショッピングセンター、映画館、レストランやカフェは、スクエア広場にあるバス降車場のすぐそばという便利です。



### 快適なインターネット環境

IPCのキャンパス内では、どこからでもインターネットに接続できます。WiFi(無線LAN)環境ですから、教室内はもちろん、食堂や図書館、寮など必要な時にはすぐに使用でき、世界中にアクセスすることが可能です。

### 共同キッチンで「食文化」を学ぶ

各ホールに備えつけられているキッチンにはオープンや電気コンロがあり、週末には手作りの料理やお菓子を作る学生の姿が見られます。国が進えば、食文化も違います。多国籍学生の食文化を学ぶ絶好の機会となるでしょう。

### 勉学に励むための私的空間

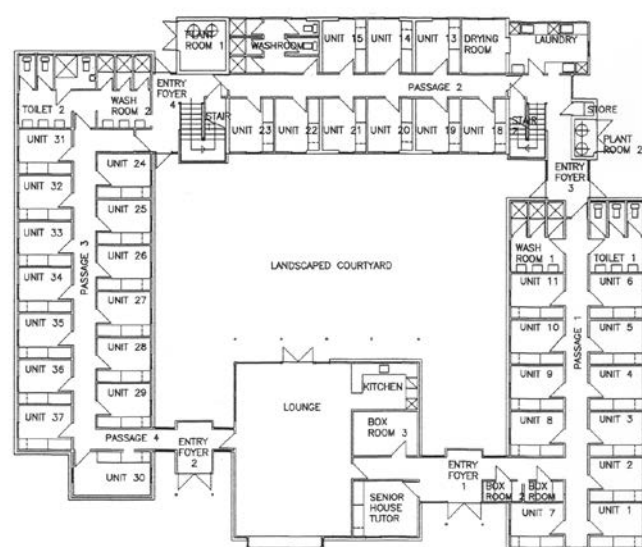
学生寮の自室は留学生活の拠点。広めの勉強机と椅子も用意され、窓から見える緑の景色に落ち着いた環境で勉学に励むことができます。留学生同士の国際交流の中で文化や習慣、母語を教え学びあうなど、友情を育む場ともなっています。

# HALLS OF RESIDENCE

## 安全・安心・快適空間

### 文化や国籍を超えた心と心が触れ合える場

「ひとつ屋根の下の大家族」という呼び名が相応しいIPCの学生寮。ここでは様々な文化や異なる国籍を持つ学生との共同生活が行われます。世界の舞台で活躍するという志をもった学生たちとの交流は、将来において何ものにも変えられない貴重な経験となるはずです。何気ない日常から芽生える仲間意識や、他国籍の学生の将来を見据えた勉学に対する情熱に胸を打たれることもあるでしょう。クラスでは学べない内的成長の日々が待っています。



Many graduates of IPC agree that they really loved their time at IPC's Halls of Residence, and that they learned a lot from life on campus. The communal experience at IPC broadens students' horizons through living with people with different cultures and values. Friendship fostered through cross-cultural interaction is a lifelong treasure.

# SECURITY TEAM

## 『勉学の質』を上げるために

### 安全と分かっても、万が一に備える

世界でも有数の安全な国、ニュージーランド。だからといって犯罪がゼロであるわけではありません。IPCでは緊急時、非常時に備え、24時間のセキュリティ体制を整えています。キャンパス外からの訪問者はすべてアドミニストレーション・センターで受付することになっており、大学が訪問者を把握する体制を整えています。また、学生寮の入り口の鍵はすべてオートロックです。



### いつでも友人に会える憩いの場

各寮内にあるCOMMONルーム（談話室）では、いつも同じ寮の友人に会えます。このスペースには液晶テレビが設置されており、ラグビー・トーナメントのシーズンには学生がこぞで集まり、地元チームを応援。テスト前には徹夜で勉強する学生も。



### 中庭で満天の星空を観測

寮は学生の部屋が中庭を取り囲むようにしており、寮内を移動するにはとても便利。晴れた日は、友人らとの語らいの場となります。勉強合間の気分転換には絶好のスペースです。夜はニュージーランドの満天の星空が見られます。



### 共同生活の基本は気配りから

周りの人たちへの気配りや配慮は共同生活の基本。自分本位の考えではなかなか寮生活には馴染めません。みんなが使うからこそ、「清潔」「綺麗」を一人ひとりがいつも心がけることが大切です。海外の寮生活でもIPCでは不便を感じることはありません。



### 消防署と連動の火災警報機

寮内には、火災警報機が備え付けられています。この警報機は地元消防署と連動しており、万が一、警報機が作動した場合にすぐに消防車が駆けつけるシステムです。万全を期して在学生の火災訓練も年に数回行われています。



### メンテナンスサービスも充実

快適な留学生活が送れるよう、10棟ある学生寮では、それぞれに室温管理が行われています。暖房器具、入居時の寝具提供、平日毎日の清掃業者による共有スペース清掃サービスなど、在学生が安心して暮らせるメンテナンスサービスが充実しています。



### 留学スタイルから選べる部屋タイプ

留学生活の基本は1人部屋ですが、学生の要望に応じて2人部屋に住むことも可能。2人部屋に進んで生活する学生の多くは、他国の学生とより密接な生活を過ごすなかで英語力とコミュニケーション力を鍛えたいと名乗り出る学生がほとんどです。



Breakfast 》朝食	7:00 - 9:00AM
Lunch 》昼食	11:30AM - 1:30PM
Dinner 》夕食	5:30 - 7:00PM



## DINING HALL

Delicious and nutritious meals are provided three times a day for 365 days of the year. This has been made possible because IPC is totally committed to the provision of pastoral care for its students, who may decide not to go home during a term break. Western, Japanese, and other ethnic dishes are prepared each mealtime. Students can enjoy lunch in the air outside the Dining Hall on a fine day, while some may choose to enjoy their food while reading a book or doing homework.

### ダイニングホール

1年365日、1日3回の食事。これは留学生のための国際大学だからできること。学期休暇中にも自国に帰国せず、留学生生活をがんばる学生を年中無休で応援します。IPCでは西洋風、和風、エスニック料理等、栄養バランスが考えられた食事をすることができます。晴れた暖かい日は屋外でオープンカフェの雰囲気の中、仲間と語りながらランチを楽しむのもよし、読書をしたり、課題をこなすのもよし。朝は6時半から夜の8時までダイニングホールが開放され、コーヒー、紅茶などドリンク類は自由に飲めます。ダイニングホールのスタッフは、全員が食品衛生管理資格を有し、IPCの学生と同じく多国籍チームで結成されています。さまざまな国から集まった厨房スタッフが、バラエティーに富んだメニューを用意しています。どれを選ぶかは皆さん次第。またすべての食材の情報を学生に開示して、安全な食事をしてもらうことを常

に心掛けています。多国籍の学生の食文化をしっかりと反映しベジタリアンにも特別に料理が用意されています。ここは学生が1日に3回足を運ぶ場所。ダイニングホールのスタッフは、学生にダイニングの暖かみを感じてもらおうと、積極的に話しかけています。教授陣も利用するダイニングホール。授業中では聞けない話や普段とは違う一面が見られることもあり、学生と教授との距離が最も近い時間を過ごすことができる空間ともいえるでしょう。パーマーストーンノース市の食品衛生管理グレード「A」評価（最高評価）を受け、市から表彰されるほどの徹底した安全・衛生管理が自慢のIPCダイニングホール。毎日食事をする学生の皆さんに安心してもらえる食環境を維持しています。



# STUDENT SUPPORT

IPC's friendly Student Support Team does its best to accommodate and support you throughout your time at IPC - from the day you arrive until the day you graduate.

## 留学中の学習から生活までスタッフ一同でサポート

### 24時間体制で全力サポート

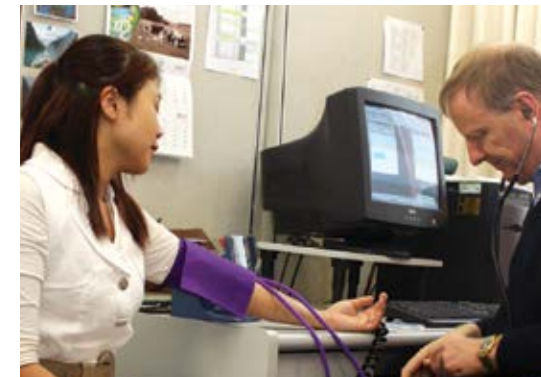
学生サポート課の大きな役目のひとつは、学生の留学生活に対する不安を取り除くこと。学生サポートカウンターには毎日さまざまな理由で学生が訪ねてきます。母国から荷物が届いた時の受け取りからTOEICの申し込み、保険の手続き、ホームステイ希望の受け付け、英語の学習方法の相談、個人的な悩みの相談、休暇中の過ごし方の相談など、その理由は多岐にわたりますが、どんな理由であろうと、学生サポートのスタッフが親身に対応しています。日本人スタッフも常駐しており、英語にまだ不安を感じる日本人初年度生にとっては大きな味方となります。

留学先は安全に定評のあるニュージーランドですが、何かしらの悩みを抱えたり、スポーツ等でケガをしたりするとも限りません。緊急時、すぐに対応できるように、IPCでは1日24時間365日のサポート体制を実現しています。多くの留学生が暮らすキャンパスを、年間を通じて安心かつ安全な環境に保ち、学生が心身ともに健康な生活を営めるよう、学生サポート課が全力で取り組んでいます。



### 日本人スタッフも駐在。慣れない初年度も断然安心。

「学業成績の把握や授業への出席確認」「専門課程の履修科目のアドバイス」「就職活動などのキャリアサポート」「プライベートな悩みの相談」「緊急時の電話受付と24時間サポート」「緊急時の病気やケガへの対応」「診療所や医療機関での通訳」など、日本人スタッフは、いざという時の心強い味方です。



## Medical Support

### 在学生のための診療所「ヘルス・クリニック」

留学中のけがや病気は心細いものです。IPCでは、在学生専用の診療所を学内に設置しています。市内から派遣された一般医(GP)が平日昼休みの週2回(1日約90分)、在学生を診察に訪れ、必要に応じて処方箋を発行します。看護師も週2回(1日約4時間)勤務。処方箋は、キャンパスから徒歩数分のショッピングセンター内にある薬局ですぐに購入できます。診療時間外には、毎日夜まで開いている市内の診療所で受診。命にかかわるような病気やケガで入院する事態になった場合には、大学スタッフが病院に同行します。



## Parcels

### 母国からの小包を大切に保管

家族や友人から送られてくる手紙や小包は、留学生にとっては何よりの楽しみでしょう。国内外からの手紙類は、学生一人ひとりに与えられたメールボックス(郵便箱)に毎日配達され、郵便室には寮の部屋の鍵を使わないと入室できない仕組みになっています。また、書留や小包は、学生サポート課のスタッフが常駐するIPC事務局で大切に保管し、学生に直接手渡しています。



## Enrolment

### 履修登録について相談

科目履修登録の時期には、教員はもちろんのこと、学生サポート課へ相談に来る在学生の姿も多く見られます。卒業率の高さには、学生の相談を親身になって受ける教職員スタッフのサポートがあります。履修登録の後も、課題提出やTOEICテストの申し込みなどは学生サポートカウンターで受け付けています。



## IT Support

### パソコンのトラブルを解決

インターネット(学内無線LAN)への接続サポートも入学後すぐに行われます。授業やプライベートで頻繁に使うパソコンだけに、故障やトラブルもつきもの。IPCには、コンピューターシステムに長けたITスタッフが常駐しており、問題が発生したときには適切なアドバイスが受けられます。また、図書館には無料で利用できるパソコンが用意されており、夜遅くまで課題に取り組む学生の姿が見られます。



## 留学の醍醐味『ホームステイ』

IPCが提携するホームステイ先は全部で30家族。コーディネーターが厳選な審査の上で学生にあったホストファミリーを紹介。

# HOME STAY



## Meet your Second Family

IPC's registered host families are carefully selected to enable students to make the most of their homestay experience. The IPC Homestay Coordinator tries to match students with the most suitable families, taking into account the details of the family profiles. For example, if there is a small child or a pet, and what lifestyle, food, hobbies and pastimes they enjoy. After a two-week trial period, students start their long-term homestay.



## ホストファミリーは第二の家族

ニュージーランド文化に触れる一番の近道はなんといってもホームステイ。英語の上達のスピードアップにつながるのももちろんですが、何よりも母国を離れていても家族の温もりを感じられるのが大きなメリットです。ホストファミリーとの毎日の食事の他、週末には一緒に買い物をしたり、映画を観たり、休暇中は家族揃って旅行をしたりと、第二の家族との出会いがここにはあります。時には、分からない語学の勉強のサポートも。IPCで登録されているホストファミリーはすべてIPCの厳正な審査を受けています。ホームステイ・コーディネーターは、学生のホームステイ経験が最良のものとなるように、学生とホストファミリーのマッチングを慎重に行います。小さい子どもがいるかどうか、ペットの有無、生活の時間帯、人柄、食事の傾向、趣味等を考慮し、ホームステイ先を選定します。2週間のテスト期間の後、正式なホームステイ先が決定します。「英語がなかなかうまく話せない」という言葉の心配も、初めは誰もが通る道。親日国であるニュージーランドならではのホストファミリーは、留学生の事情をよく理解した上で、日本人学生を歓迎してくれています。



# GRADUATES AT WORK

## 時代と共に成長する卒業生

### 過去の主な就職先・進学先

■航空  
ANAエアサービス東京  
JALスカイ東京  
エアニッポン  
エティハド航空  
エバー航空  
エールフランス  
カタール航空  
空港ターミナルサービス  
全日空  
長崎空港  
日本貨物航空  
日本航空インターナショナル  
ニューゼaland航空  
ノースウエスト航空  
ユナイテッド航空

■ホテル  
ウェスティンホテル東京  
ウェスティン都ホテル京都  
グランドハイアット東京  
神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ  
ザ・ペニンシユラ東京  
ザ・リッツ・カールトン東京  
全日空ホテルズ  
東急ホテルズ  
パークハイアット東京  
パンパシフィックホテル横浜  
ヒルトン大阪  
ヒルトン名古屋  
フォーシーズンズホテル丸の内東京  
ホテルシーパレスリゾート  
ホテル日航関西空港  
ホテルニューオータニ大阪  
ホテル阪急インターナショナル  
丸の内ホテル  
マンダリンオリエンタル東京  
横浜ロイヤルパークホテル

■旅行・レジャー  
ANAセールス  
H.I.S.  
JALパック  
JTB  
JTBグローバルマーケティング&トラベル  
アイエシ・トラベル  
インターナショナルアシスタンス  
近畿日本ツーリスト

クラブツーリズム  
中部国際空港旅客サービス  
トッパントラベルサービス  
トップツアー  
鳥羽水族館  
日新航空サービス  
名鉄観光サービス  
リゾートトラスト  
旅行総研  
ワーナー・マイカル・シネマズ

■音楽・出版・広告  
DAYS JAPAN  
IMAGICA  
太陽企画  
電通テック  
日本経済新聞社  
ブリクサー・ジャパン  
ユニバーサルミュージック

■情報・通信  
NTT  
アルファネット  
ソフトハウス  
ソフトバンク  
日本コンピュータ技術  
パンテック

■化学・ゴム・窯業  
TOTO  
伊藤忠ファインケミカル  
コモン  
七宝金型工業  
東芝モノフラスクス  
東燃化学  
日本電気硝子

■機械・電子・電機  
カシオ計算機  
川崎重工業  
京セラミタ  
ソニーエムシーエス  
パナソニック  
日立機軸テック  
日立製作所  
富士電機  
ヤマハ  
ユニデン

■輸送用機械・精密機械・印刷  
イナハ印刷社  
日井国際産業  
クリーンプリント  
ダイハツ工業  
高野精密工業  
東伸工業  
日本機軸工業  
日本シリコングラフィックス  
富士精工  
前田精密製作所

■商社・卸売  
P&Gマックスファクター  
朝日通商  
愛媛女子短期大学  
クラーク記念国際高等学校  
創学ゼミナール  
創志学園  
東京工科大学  
レナウン  
ロイヤル  
ロイベ・ジャパン  
コストコ

■販売  
アマゾンジャパン  
オンラインテール  
イトヨーカドー  
オートバックスセブン  
木下真珠  
クイックシルバー・ジャパン  
木創産業  
トヨタカラー  
日産プリンス  
ニトリ  
日本トイザらス  
ビックカメラ  
フラグスタイル  
ホンダ販売  
ペイクルーズ  
松坂屋  
ユニクロ

■不動産  
東急不動産  
三井ホーム  
レオパレス21

■電気・エネルギー  
出光興産  
中部電力  
■信販・損保  
GE三洋クレジット  
JAGOS  
セゾン自動車火災保険  
みずほインベスターズ証券

■教育  
BERLITZ JAPAN  
ECC  
IPU・環太平洋大学  
イーオン  
愛媛女子短期大学  
クラーク記念国際高等学校  
創学ゼミナール  
創志学園  
東京工科大学  
福岡大学  
文化服装学院  
ラストリゾート

■サービス  
アートコーポレーション  
インタープレイス  
サントリ・ジョッピング・クラブ  
ドルコーピー  
ニッポンレンタカーサービス  
松屋フーズ  
ワタミフードサービス  
オークネット  
オープレジャーグループ  
パンフィックダイナーサービス  
物遊コーポレーション

■物流  
DHLジャパン  
アルプス物流

■官公庁・団体  
建設庁  
日本財団  
日本貿易振興会(JETRO)  
マレーシア政府観光局

■海外  
ANZ BANK(NZ)  
ASEAN(インドネシア)  
BANGKOK POST(タイ)  
CATHAY PACIFIC AIRWAYS(香港)  
CENTRAL SOUTHLAND COLLEGE(NZ)  
CISCO SYSTEMS(オーストラリア)  
CONTINENTAL AIRLINES(台湾)  
CSI(タイ)  
DEPARTMENT OF CONSERVATION(NZ)  
EMBASSY OF INDONESIA(NZ)  
EMBASSY OF JAPAN(NZ)  
EMBASSY OF NEW ZEALAND(インドネシア)  
EMBASSY OF NEW ZEALAND(タイ)  
EMIRATES AIRLINES(UAE)  
FONTERRA(NZ)  
HOROWHENUA COLLEGE(NZ)  
HSBC(タイ)  
HUFFER DIRECT(NZ)  
IBM(シンガポール)  
IPC TERTIARY INSTITUTE(NZ)  
ITOCHU NEW ZEALAND(NZ)  
ITB(NZ)  
JVL REAL ESTATE(NZ)  
MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS(タイ)  
MINISTRY OF SOCIAL DEVELOPMENT(NZ)  
OPUS INTERNATIONAL(NZ)  
PARK ROYAL WELLINGTON(NZ)  
SAMSUNG(韓国)  
SWISS BANK(香港)  
TIM'S TAYLORS TOURS(NZ)  
TOYOTA NEW ZEALAND  
WANGANUI GIRLS' COLLEGE(NZ)  
WARWICK HOTEL(フィジー)  
WELLINGTON INTERNATIONAL AIRPORT(NZ)  
WESTPAC BANK(NZ)

# STUDENTS' VOICE

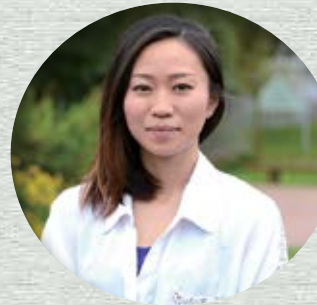
## 在学生在語る『国際大学IPC』とは？



### 国際社会の中で確固たる自信が得られる場所／紙村 優貴

<私立クラーク記念国際高等学校芦屋キャンパス出身>

IPCでは、国際関係学を学んでいます。授業では政治・経済・環境の3つの観点で、一つの事象から世界情勢までを見つめることを必要とします。様々な視点から物事の本質を見極める能力を伸ばすことができる学科です。専門課程では、総合して国際的な舞台上で活躍する人材になるために、とても大切なことを学びます。各国の大使館からのゲストスピーカーが今の国際情勢や環境問題をテーマにIPCで講演する等、セオリーを学び、時事問題を取り入れるなど、非常にまとまったプログラムになっています。教職員の方々は、一人ひとりの学生の長所と短所をしっかりとわかった上で授業外、勤務外でも学生と向き合い、いつでも誠心誠意を込めて対応して下さいます。当たり前のように聞こえますが、365日本気で学生の事を考えていないとできない事だと思います。学生数の多さからどうしても対応に時間が割けないという大学が多い中、IPCのこの環境は特別待遇とも言えますね。



### 国際大学での挑戦の日々が大きな力に／岩澤 早紀

<群馬県私立新島学園高等学校出身>

多種多様な人種、国籍の学生が多いという点はもちろんですが、私の思うIPCの良さは、成長出来る機会がたくさんあるということです。やる気次第で、様々なことに挑戦できます。私は、様々なイベントの企画運営に携わりました。そのことで、企画力や交渉術など社会で必要なスキルを身につける機会を得ました。私が履修する経営学の授業では、ビジネスの仕組みや、他国の慣習や文化について学んでいます。国際社会では、いかにその国の社会や文化に対応できるか、いかに想像力に富んだ今までにない斬新なアイデアを生み出せるかなど、臨機応変に自由な発想ができる人こそ、グローバルな人材ではないでしょうか。将来は、IPCで学んだ専門知識や、この地で得た経験を生かして国際的に活躍できるビジネスパーソンを目指しています。



### 世界からの視点で経営を見る力を養う／森本 康平

<兵庫県立加古川東高等学校出身>

経済学に興味を持ちビジネスを専攻しています。履修科目は大きく分けて、会計学、組織行動学、経済学、経営学です。授業で取り扱う英単語も難解となるため、予習、復習に要する時間も増えますが、経済用語や、社会がどのように成り立っているのかなど、授業内で習った事は、これから社会人として生きて行く上で、必須なものであり、社会の本質を見極める知識を学ぶ事が出来る専攻分野であると思います。IPCには、興味のある分野に集中して勉強できる環境が整っています。また、環境学・国際関係学・経済学を総合的に学ぶ事ができる枠組みがあります。私の夢は、会社を営み、競争市場で100年続く企業を創り上げることです。IPCで学んだビジネスに関する知識は、将来大いに役立つと思います。



### 多国籍環境が導く新たな視点と知識／滝 麻衣

<私立クラーク記念国際高等学校千葉キャンパス出身>

現在、私は国際関係について学び、世界で起こっている様々な問題や各国の政治的方針などについて学んでいます。クラスに様々な国の学生がいるので、アジアの現状や、これからの対策などについて話し合う機会が多くあります。その中で、それぞれが異なった考えを持ち、それらを共有することで新たな考え方や価値観を学びました。日本の政治事情についても話し合います。日本にいただけでは、日本人の観点でしか考えませんが、多国籍の学生や教授と話すことで、外国人から見た日本といった、とても興味深く違った日本を知ることができます。自身の興味や関心のあることについて、違う国籍の人々と意見を交わすことは、とても勉強になり視野を広げる絶好の機会であると思います。



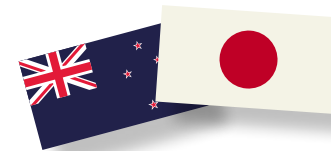
### IPCでの経験は私の誇りです。／オデ・サティア (インドネシア出身)

私は外交関係のサポート役員として、大韓民国大使館で働いています。バリ島からIPCに留学し、海外での学習の機会を得ました。大学生活は素晴らしいものでした。先生方は、日々の生活を厳しいものにして下さいました。私を強くしてくれ、今の私があります。与えられた様々な挑戦は有益なものであったと心から思います。人として成長し、たくさんの知識や能力を得て、次の挑戦への準備をすることができました。IPCには就職活動サポートセンターがあり、面接練習を手伝ってくれたり、履歴書を完璧で説得力のあるものにし、勇気づけてくれました。私からあなたの方に伝えられることは、自分自身を信じること、可能性を広げ、自身の中にある秘めた能力を見つけ出して下さい。安心して下さい、IPCの人々は出来る全てで、あなたが人として成長する、実力を高める手助けをしてくれます。楽しみにしています、あなた方が、私はIPCを卒業したことを誇りに思う、と言うその時を。



### ニュージー大好き！職場で生きた留学生活／妹尾 明日香

ニュージーランドの豊かな自然や人の優しさに惚れ込み、IPC入学当初から日本に帰国することは考えていませんでした。現在は、大都市オー克蘭ドの企業(MYDO NZ Ltd.)に就職し、個人・団体のツアーガイドとして国内の観光地を案内したり、留学コーディネーターとして、語学を学びたい方々のために、語学学校や高校学校の案内、その際のサポート業務など幅広く行っています。IPC在学中は、様々な委員会に参加しました。その際に学んだ財務管理や広報活動、集客方法などは、現在の仕事にも活かされていますし、専攻した環境学で学んだ、絶滅危惧種の保護繁殖の方法や自然災害の成り立ち、文化環境などの知識も同様に観光業界で業務に携わる際に大変役に立っています。今後は、さらに高度な知識を必要とするツアーガイドにも積極的に挑戦し、自己研鑽に励みながら、マーケットの展開を視野に入れ、人との繋がりと信頼関係を積み上げていきたいです。



## 日本で行う保護者向けサポート

### ◎ 日本でのオリエンテーション

新入生の留学生活は渡航前から始まります。保護者の皆さまを交えて実施する日本でのオリエンテーションでは、留学の心構え、留学生活、英語学習、在校生・卒業生との座談会、進路指導等について、IPCでの留学生生活を成功に導くためにスタッフが万全にサポートします。



### ◎ 日本での保護者会

年2回(2015年度は7月下旬・12月初旬)、日本各地で開催される保護者会では、テレビ会議システムやスカイプを利用した学生・保護者・担当スタッフの3者個別面談を行い、学生生活の様子、学業面の確認、進路などについて個人個人に焦点をあて、詳細に個人面談を行います。



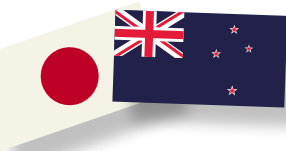
### ◎ IPC日本事務局

東京駅八重洲南口からすぐというロケーションのIPC日本事務局。現地ニュージーランドキャンパスと日本を結ぶ橋渡し役となっています。様々な準備、各種事務手続、お様に充実した留学生活を送っていただけるよう保護者様との連携の要となる等、日本側の大学の窓口です。

# SUPPORT for PARENTS

## 2カ国からの保護者サポート

留学の成功は保護者の皆さまのサポートなしでは成し得ません。留学生を海外に送り出したすべての保護者の皆さまに安心していただくために、IPCでは学生の生活の様子や学業・成績について定期的にご報告するとともに、ニュージーランドキャンパスを訪れる保護者対象のツアーを設け、現地の状況を知っていただくための環境づくりを整えています。



## ニュージーランドキャンパスで行う 保護者向けサポート

### ◎ 日本語ホットライン

保護者の方からのご相談に応じる日本人スタッフ対応の電話とメールによるホットラインを、ニュージーランド事務局内に設けています。

成績や取得単位数などの勉強面、あるいは生活面に関する保護者の方からのご質問は、学生の日常生活や現地の様子に精通したスタッフが日本語にてお答えします。

【日本人スタッフ対応ホットライン】 +64 (ニュージーランド国番号) -6-350-2827

### ◎ 保護者ツアー

IPCでは入学式(5月初旬)、インターナショナル・スプリング・フェスティバル(9月下旬)、卒業式(12月初～中旬)に合わせて、保護者の皆さま対象のツアーを実施。海外に送り出したお子様の現地IPCでの様子を知る機会や、ニュージーランド観光も兼ねたパッケージツアーです。

### ◎ Eメール速報サービス

キャンパスの様子や各種お知らせをお伝えする、保護者向けの「アオテアフラッシュ」。最新ニュースやキャンパスと学生の状況をいち早くお知らせするサービスとして機能。



### 2013年度卒業式

【IPC HEADLINES vol.126】  
第23回IPC卒業式/保護者代表挨拶/卒業生プレゼンテーション/卒業生リスト一覧/Your Career Pathway/教授紹介/第2回成人式/在学生紹介/IPCカレンダー/提携校リスト一覧



### 第25回IPC入学式

【IPC HEADLINES vol.127】  
入学式/IPU・環太平洋大学国際教育学科2期生修了式/NZ高校生が熱狂「祭り」イベント開催/インターンシップ紹介/TOEIC結果発表/研究奨励賞・教育貢献賞授与式/IPCカレンダー/提携校リスト一覧



### エボラ出血熱防止策を探る

【IPC HEADLINES vol.128】  
英語スピーチコンテスト/インターナショナル・スプリング・フェスティバル/インドネシア大使の特別講演/基礎英語教育紹介/IPCオープンキャンパス/IPCニュース記事/IPCカレンダー/提携校リスト一覧



### 2014年度卒業式

【IPC HEADLINES vol.129】  
第24回IPC卒業式/卒業生リスト一覧/IPU・環太平洋大学国際教育学科3期生修了式/リレー・フォー・ライフ/第3回成人式/IPCニュース記事/IPCカレンダー/IPCオープンキャンパス/提携校リスト一覧



### 夜間特設クラス

【THE IPC TIMES vol.7】<学生編集>  
英語力を底上げする「夜間特設クラス」の全15クラスの紹介/年間1200時間の英語訓練/4技能の徹底で「英語脳」を鍛える/TOEIC対策/チューティングシステムとは?/英語力を身につけたその先を見据えて

# NEWSLETTERS ニュージーランドから お伝えする情報誌

## 日本の保護者と学生をつなぐIPCのニュースレター

IPCの学生の様子を写真と記事でお知らせしています。活躍している学生の紹介、成績優秀者の発表、クラスの様子、入学式・卒業式の詳細、クラブ活動、卒業生からのメッセージ等、IPCのニュースを定期的に日本の保護者の皆さまにお届けいたします。バックナンバーはウェブサイトでもご覧いただくことができます。

# IPU

## 日本にある系列大学。

系列大学IPU・環太平洋大学への編入で、  
時代が求める「英語教師」を目指す。

### 本物の英語教師への道が開かれる理由。

「英語を駆使できる」先生がどれだけ日本にいてしょうか。  
留学と国際交流を経験したIPCの学生には、時代が求める英語教育ができる英語教師になるチャンスがあります。IPCを卒業後、日本にある系列大学のIPU・環太平洋大学に編入することで、日本の大学卒業資格と教員免許（中・高英語）が取得できます。グローバル時代に求められる英語教師の育成をニュージーランドと日本の2つの大学で実現します。

## BECOME A TEACHER IN JAPAN

How many teachers in Japan have a good command of English? IPC students will have an opportunity to get a teacher's certificate by transferring to Faculty of Education for Future Generations at International Pacific University, Okayama, Japan. With this certificate, graduates are able to teach English at junior and senior high school levels.

2016年4月  
誕生

日本とニュージーランド。2つの大学で学びたい学生へ!

次代を力強く切り拓く国際人になるため、IPU・環太平洋大学では、現代経営学科【グローバルビジネスコース】と【ビジネスマネジメントコース】を設置。希望者はニュージーランドIPCへの留学が可能（1年間・6か月・6週間の選択制）。日本とニュージーランドの2つの大学で学ぶことで英語力は勿論、世界が求めるビジネスセンスを確実に身に付ける。

## 経営学部

【現代経営学科】設置認可申請中 \*内容は予定であり変更する場合があります。

# IPU

INTERNATIONAL  
PACIFIC  
UNIVERSITY

## 環太平洋大学

### 「環太平洋大学構想」から生まれた2つの大学。

1990年に開学したIPC・インターナショナル・パシフィック大学と、2007年に開学したIPU・環太平洋大学。いずれも、母体である学校法人創志学園の理事長・大橋博が1987年に提唱した「環太平洋大学構想」をもとに創設された大学です。太平洋を取り巻く国々の「教育の国際化」を目的とした「環太平洋大学構想」の第一歩として誕生したIPCと、その第二ステージとして開学したIPU。同じ1つの目的を掲げて創られた大学だからこそ、2つの国で学べる基盤がしっかりと築かれています。



お問合せ先

入試広報課

Tel: 086-908-0362

Tel: 086-908-0200(代表) E-mail: info@ipu-japan.ac.jp

〒709-0863 岡山市東区瀬戸町観音寺721

www.ipu-japan.ac.jp

## 入学情報・留学に関するご相談・お問合せ

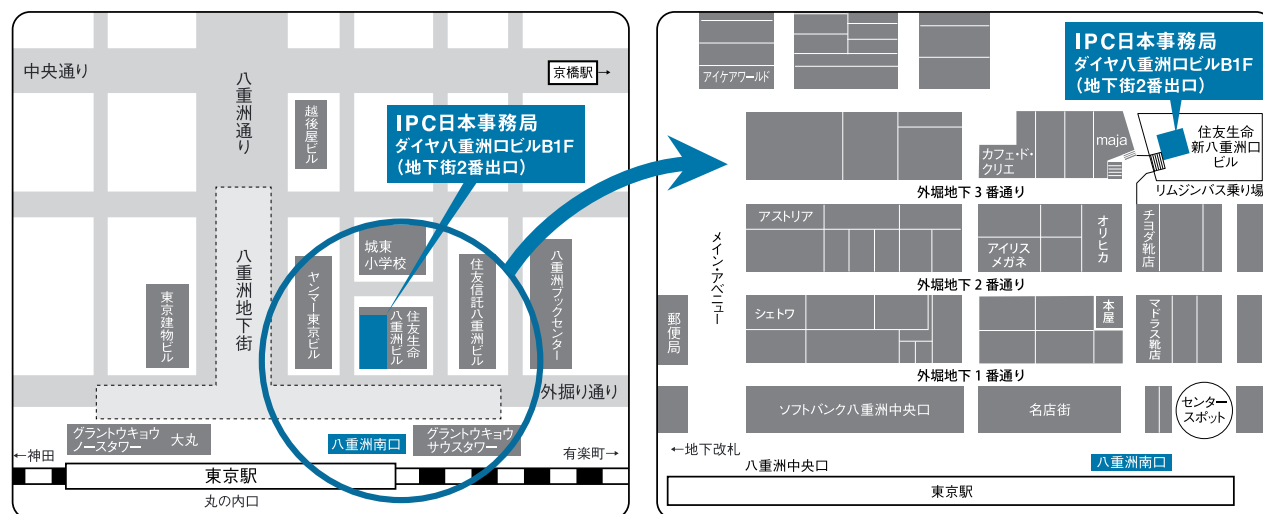
### インターナショナル・パシフィック大学日本事務局

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 ダイヤ八重洲口ビルB1F  
☎ **03-6202-0606** FAX: **03-3245-6300**  
担当: 田中 大樹 (タナカ ヒロキ)  
Justin Rore Stafford (ジャスティン ロリ スタッフォード)

### インターナショナル・パシフィック大学ニュージーランド事務局

IPC TERTIARY INSTITUTE  
57 Aokautere Drive, Fitzherbert, Palmerston North 4410, New Zealand  
☎ **+64 6 354 0922** FAX: **+64 6 354 0935**  
担当: リーブス・菜央 (ナオ)

Email: [infoj@ipc.ac.nz](mailto:infoj@ipc.ac.nz)  
<http://www.ipc-nz.ac.jp>



インターナショナル・パシフィック大学日本事務局はJR東京駅八重洲南口から徒歩2分(八重洲地下街から2番出口を出てすぐ)。  
八重洲地下街につながる、交通至便の場所にあります。



## IPC Graduate Profile

You will grow in confidence, independence and ability to set your own goals.

You will contribute to the society in which you live.

You will be able to think critically and solve problems in creative ways.

You will gain in ability to access and evaluate information in a range of ways.

You will be curious and excited about learning.

You will have the ability to listen to others from different countries, and to communicate cross-culturally and inter-culturally.

You will be able to use two or more languages accurately in a range of social settings, content areas, and in your work, at a high level of fluency.

You will be able to apply what you have learnt in various work-place situations.

### 本学が定める卒業生像

自信を持ち、精神的に独立しており、自分自身で目標設定ができる  
社会の一員としてコミュニティに貢献ができる  
分析的思考力を持ち、クリエイティブに問題を解決することができる  
さまざまな方法で情報を入手し、分析・判断することができる  
好奇心があり、強い学習意欲を持っている  
他国出身の人々の話に耳を傾け、異文化コミュニケーションができる  
さまざまな場面で2カ国以上の言語を正確に、高度なレベルで駆使できる  
学んだこと、身に付いたことを実社会で実践することができる

IPC TERTIARY INSTITUTE  
UNDERGRADUATE PROSPECTUS 2016

Published by  
IPC Tertiary Institute  
57 Aokautere Drive, Fitzherbert,  
Palmerston North 4410, New Zealand  
Copyright © 2015 IPC Tertiary Institute